松城封内寺社由緒録

836
12

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

松城封内寺社由緒録

836
2
12

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

寺院由緒録

六 御合力救五拾表

埴科郡松代

願行寺

天文年中於小縣郡海野註 幸義公御開基地所一万坪寺地トシ
テ御寄附今以上田表頂行寺、収納仕候 開山、松譽上人ニテ二代
目三代目前後之内伊勢山、御引移ニ而由願行寺同ト号候寺地
之内、代目之頃奥田表、御移御建立五代目道山和尚御請待住
職、御建立 元和年中同所海野町裏ニ御建立有之候処
天正年中後住之後並ニ前屋敷諸役 御免之御下知状元和年間
門前町傳馬之内ニ有御朱印御書写傳来神川御陣之
節、道山和尚一方ニ御跡ニ加り力戦仕候事真田表旧地無住之節
番人ニ御附置候御忠勤増田正治ニ悴同正治弥有者ニテ合

大 5-27 熊谷

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

戒之節ゝ手柄ゝ仕ゑ和
治廿六年桂代御移封ゝ新柄道山并子両人ゝ正
治廿六年ゝ召連ゝ今ゝ境ゝ堂塔御造営相整候ゝ付
開山道山俗姓ゝ菅原代ゝ勇方付林中ゝ天満宮ゝ安置鎮守ト仕従
御城辰巳ゝ相當候故城巽林共称ゝ追而ゝ公義ゝ御朱印可被
為ゝ仰立ゝ御趣意ゝ以當今ゝ名称合力被下候ゝ付
候ゝ二代目廓道和尚ゝ業於御用部屋住持交替ゝ蒙ゝ仰
三代目住僧九州ゝ而遍歴ゝ節州地ゝ寺院ゝ御朱印ゝ仰
立相済慶安三年右住僧飯國ゝ御朱印ゝ候奉願候所寛享
新規之ゝ御朱印御停止ゝ罷成候由旦又宝山道山時代
景徳神君御立寄ゝ節頂戴之御染筆
境上寒山石役斜

下申起句ゝ長会律詩一幅相傳什宝仕御存生ゝ御昵近申
上候伊米彦六入道信西ゝ拝領仕當山ゝ納置候 御分學文ゝ玉塔并同
入壽像ゝ節頂戴ゝ御奥ゝ記ゝ有之仕當山ゝ浄土宗ゝ寺院
ゝ支配大英寺同格ゝ仰付候ゝ付事候

御寄附御藏米百石 大鋒 寺

大鋒院様御隠居所ゝ而長國寺觀國和尚蒙 御意命
御卒去後 御遺言 御霊屋并諸堂御建立御館ゝ地ゝ相成下
境内ゝ金井山金井沈ゝ放生山放生沈ゝ御寄附ゝ之ゝ書等ゝ覚保
二戌年満水ゝ節流失ゝ由

御朱印壱石

杵渕山 福徳寺

往昔弘法大師觀想ゝ所謂ゝ以杵渕村ゝ伽藍造營有之所甲

信ニ兵火ニ焼失大師自作ニ不動尊一体而已残リ當時護ノ壹ニ
安置大師所持ノ五鈷杵ノ一社ヲ播濱守トシテ之ヲ水澤村ニ宮有
之仍テ五鈷山吉祥院ヲ號シ開山佛舎利并古画ニ涅槃像一幅仍
来更ニ寺中ニ五山ヲ構ヘ寺號ヲ移シ法華堂ヲ雄伐御當
城造営ノ節地繁ニ付行ヒ祿年間今ノ地ニ移シ武田家ノ造営有リ川
中島合戦ノ節信玄公自筆ヲ以寺領安堵ノ判物并天正年中
田家ノ寺領ヲ附ケ大久保家ニモ同断之和八年板代御入部後御
札献上十二月廿五日銀子七枚頂戴是ヨリ御祈禱所ニ
鬼門御祈禱仰付ラル
一寛永十三年御朱印頂戴ノ節境内ヲ
信州川中島福徳寺ニ移ス
寛永元甲子

見寺ヲ御寺付ニ仕ラル旨ヲ以寺ヲ相退ク事ヲ初ヘ
但千二百年以前ヨリ年ヲ積リ次ニ正ノ刻ヲ改ル事ヲ到形ノ
焼モ仕ラル以上
寛永十三子年
真田信之
一札今啓上仕候科郡寺尾村福徳寺領ニ而法華
宗ニ仕候ニ付而ハ寺ヲ相退キ申ス事ヲ初メ
ニ而焼失

一 慶安元年二月 御朱印頂戴
一 行基菩薩開山 御本願之寺院ニ付 御代々
年中之 御法度之 御條目 御祈禱 仰付
被 遊 御免之 御綸旨 寛永年中 御寄進
御朱印頂戴 御祈禱 仰付 御代々
成下候旨書上

一 御国之 様方 御菩提所ニ 被 遊 御定
信房 公御代故有之 御代々 御位牌
入仏 忌日之 御年中右堂 金子 御引揚 観
音之像ニ寺領四

[illegible] 御寺

安置仕候 永享年中堂再建之節 堂号 額
被 遊 御寄附 御染筆頂戴其後 普請之節
被 遊 御寄附 御染筆頂戴 同年 堺迄
御送 被 遊 御寄附 御染筆頂戴之右
観音堂 号 石山之額字 大慈院 様 御
御染筆頂戴 同年 堺迄 御送 被 遊
御寄附 御染筆頂戴 同年 堺迄 御送
被 遊 御寄附 御染筆頂戴 同年 堺迄
御送 被 遊 御寄附 御染筆頂戴 同年
堺迄 御送 被 遊 御寄附 御染筆頂戴
同年 堺迄 御送 被 遊 御寄附 御染
筆頂戴 同年 堺迄 御送 被 遊 御寄
附 御染筆頂戴 同年 堺迄 御送 被

御内佛　御内方様　徳巌院様尊牌ホ御安置　真常
院様御直筆頂戴　御代々御遺物拝領　御位御免
御額寺稲荷大明神御預御宮并別當不二庵ホ成下御建
今之堂塔以下勿論御修復ホ成下末寺ホ之寺末庵四ヶ所ヲ
配當ニヶ所ホ下由

十　除地ニ石

往昔村上家ヲ代族當郷ヲ領主西条美濃守尚ラヲ義ヲ
孫西條隼人正尚昭父ヲ遺志ニ依テ永禄年建立ヲ之和尚ヲ請
郷業根井村ヲ城主村松土佐守保則ヲ菩提ヲ弔ヒ
方今カ助成ヲ以天正二年ヲ至一宇ヲ草創成就有ヲ彼是
ヲ事由ヲ関谷山ト唱場所ヲ義ヲ廿ホ仰ヲ寺号ヲ称ス

大蓮院殿追福
ノ為ニ上田詩ヲ部
ニ大英寺建立
元和八年二月九
日三間四方ヲ
今勤行有ヲ
日ヲ詳ホ明ヲ
ヨリ何ソ十月移村
後ヲ没今ヲ
有ニ宇旦芳泉
寺ハ仙石家ニ
菩提ノ寺ヲ
大英寺ト開ヲ
ナル

故ヲ以十二ヲ条ヲ呼則十二ヲ神院ヲ稱シ寂山善室和尚浄土宗ヲ
ノ為西雲寺ヲ跡シ右十二ヲ神安置ヲ遺ヲ山ヲ跡ヲ
於今支配仕西條村村ヲ百姓ヲ古墳存在
大鐘徳巌院様御入寺ヲ御位上田表芳泉寺ヲ
御建立ヲ之節ヲ如ニ勤行仕其後大
蓮院殿様御ヲ菩提ヲ之為ヲ御建立ヲ由ヲ右御山林ヲ
寺領ヲ之ヲ以御手向ヲ之為毎日追福
ヲ法ヲ相勤ル由ヲ又　正覚院様御在世御免許ヲ節山林ヲ風景
ヲ宜敷ヲ由ヲ御霊屋ヲ場所ヲ御見立
慶安元年御草ヲ之節ハ御位像ヲ之ヲ以勿論寺内焼
香上日寺ヲ御遺骨御石碑ヲ之ヲ
以同年御霊屋御造立ヲ之ヲ三年洪鐘新鋳鐘楼ヲ建立日八月御

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

奥方御辱去御石碑、鎌頴寺 御位牌、常山、法華経、右之内縁を以
大通院様 普賢院様 尊牌 御位牌 業行寺内祖師堂 正保四年
御再建有之 承保四年二火災ニて焼失 古牌 勲焼右等依之由
待文政二年寺格ニ成候節 正覚院様 御施納ニ
仰付御脇部ニ遣ス 其外御修復 成下候旨且境内山林ニ名ニ御
所自ニ規除地頂戴罷在候由

十一 除地拾石六斗ヨ
文政十三寅四月比ニ御願出ニ照光山下ニ

雲龍山

乾徳寺

正保年中於上州沼田 照光院様 御建立 程ニ而寺建 照光寺ニ号
国陽院様 松城ニ 御引越 御城下馬場町ニ
御住居之節 御引越 御城下馬場町ニ
御住居之節 御引越 御城下馬場町ニ
御住居之節

寛文元年以前玉川家ヨリ先祖位牌等寄来ル由
元禄元酉年以来ノ分ハ不知
寛安元辛丑ヨリ
ソノ上正保三丙戌
元和九亥ヨリ

十二 境内除地 一ヶ所 可候山 向陽寺

一 右ハ一統寛文年中ヨリ有来ル地ニ候一名彼ノ年地蔵堂ヲ建立仕候ヘ共ソノ後ハ無住ニ而諸堂悉ク破壊仕候ニ付本堂ヲ修覆

別仁等五人遠流犯族等二十
三保二年
七月二日 御譚□

又可案者

御壽像御讃 滋野朝臣
當家末流
新銘記民
永榮且彩
高田寺寺
像納寺又
境内二石寺并
外若井共廢

白鳥山 證蓮寺

延文元年

永仁年中更行郡塩崎村白鳥山報恩院康樂寺二代淨加等法眼宥基東
条村、建立白鳥山證蓮寺又報恩院ヲ称ス應永長年中今ニ地、移ル故
ニ今以東条村内田口ニ有之云々立石并ニ石塔有之云々安永年中類焼其砌
軍勢甲乙人新仏等ヲ取散シ可不埒ニ付而住持仕大久保石見守等ヲ以
永禄十三年 酉 月十日 訴訟ヲ次第ニ
白鳥山 法蓮寺

禁制

一 甲乙人濫妨狼藉之事

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

一 仏様行基菩薩ノ彫刻ニ係ル
一 唐ノ鏡ノ銘ニ千手
右像ハ新古両寺ニ渉リ
天平年中ノ作ニ
一 智者院様ノ御筆ニ係ル千手
墨ノ字ニテ品々ニ有之通
化 御筆
天真院様ノ筆ニ
一 文殊ノ画像
一 法服千条
一 幡一
一 かゝり多四ツ

七

一 日傘
一 四脚打敷ノ類
一 厂今ニハ破ル
樽原山 真勝寺
廿二
往古此山ハ法華宗ニテ
山改真勝寺ト号ス
寺作後年山ハ御寺ニ
惜ク
跡二ツ今以テ存ス
廿三
本歌観音前ニ
本年唐銅ノ香炉一ツ
年号ナシ

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

十三 御朱印拾石

往昔観音堂ニ永禄年中武田家ヨリ西像ノ美作等ニ頒依テ信玄候ガ
佛供免トシテ永納ノ西五千文寄附 慶長二年西徳伊尋ニ上貞享二年六月
中ニ於テ 御手ヲ頂戴 享保年中 真享度様 御寄附仰ツケラレ
許ニ同寺ノ院具ニ帰ス 其行ニ於テハ
云度法統ハ松部ヨリ成下ノ寄附ニ有之候ヲ以テ
近年欽ニ右近 於ニ同寺ニ殉死仕候ニ付 追善資糧ノ為ニ
成下ノ寄附ヲ壇ニ仕置ニ付 当寺ニ預ル

十四 天文年中清水御山城守信恵ノ時ニ異基ヲ仰ツケ
近年欽ニ右近 於ニ同寺ニ殉死仕候ニ付 追善資糧ノ為ニ
成下ノ寄附ヲ壇ニ仕置ニ付 当寺ニ預ル

十五 御手ヲ拝領ノ名ニ付

往古ヨリ移転ノ砌 有之 天文年中寺ヲ山ニ築ノ引移リ文禄年
中今ノ地ニ移ル 慶長ノ安 寺号
寺ニ於テ 古来ヨリ堂ト称シ 寛政年中 楠門ヲ額字ヲ
天真院様 御寄附ニ付 額ニ記ス

十六 除地五石ニ付

同村 真如山 万法寺

開祖順佛坊ハ俗名伊藤兵部ト云信俊西國ヲ乱ヲ避元祖親鸞上人ノ
子ト相成十字ノ名号ヲ授ケ文永四年三月十八日迁化其後本山代
日蓮御上人北国下向ノ節六字ノ名号ヲ授ケ天文年中慶長ノ寺
方法寺ト改ム武田家ノ書文書ニ有之 付ニ水災一節流失寄
名号二幅而已許ニ有之

龍燈山 清水寺

同村 正眼山 法泉寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

十七

実保年中満水ニ寺中流失由書ヲ不残ノ宝ノ年中割札頂戴明和
年間焼失ニ付又々頂戴ス

十八

往古ハ小ノ洗ヒ迄ニ小堂有之ニ船蔵鬼金剛鬼大日ノ三体安置羽黒派
修験持ニテ一軒ニ高村鳴町ニ有之由其後天明ノ頃ニ改元和年
中両井家松代ノ城主ニ而ニ当寺ヲ祈願所ニ定メ御朱印ヲ以檜材ニテ建立出来院ト称ス
大鐘楼様ノ額ヲ始御寄附物数多有之候得共年中度々ノ火事ニ而焼失
ス後光寺実相院ニ而寄進ノ釣鐘ニ頂戴ス御朱印ヲ以諸役御免
御ニ而有之候得共是又焼失ス又ハ紛失ニ而ハ無之候哉ニ付書上不申候

山名野村　荘厳山　正源寺

荒町　幽洞山　歓喜寺

東條村　無漏山　寶相院

清野村　清涼山　高源寺

中近年ニ成ノ付書後度毎宣ヲ十枚宛頂戴
仕候ニ付

天満宮様御寄附ノ御名ヲ成下ル
当御免文化年中同私ノ領内ヲ以中興ス

二十

真常院様御代大杉ヲ以長巌和尚開山ニ
松寿院様ノ二人扶持方頂戴仕
圓陽院様　真常院様　松寿院様
ヲ以寺領安堵ノ御朱印ヲ頂戴

二十一

往古清野ノ内新町天台宗ヲ以往生院西光寺ト称ス永禄年中ノ兵乱
ニ浴室并ニ釜平ノ阿弥陀堂ヲ焼ク名物銭有之ノ処慶長年中浄土ノ
ヲ以当寺建和尚勧請ス其ヲ地ニ移シ庵室ヲ建理ス其ヲ後ニ伝ヘ見樹院様

清涼院　大鐘之銘　内匠頭親　高源院　大厚七寸

依歳下之建立　一ツ源院様　清源院様御菩提之故ヲ以清涼山ヲ源寺ト号念
佛修行仕ル　或ハ午前川ヨリ流燈ヲ献ジ名号
ヲ書写シ　或ハ午前ニ諸下　佛号ヲ誦シ
ヲ勤行ス事下　御先
一一壹基　御石碑ヲ建　御後生善所ヲ祈
御ヲ霊牌　ヲ安置シ　佛法事ヲ執行ス
第四之　仰付ル

三二　境内絵地

天正十五年　卯正造之　清涼院　木号　開
山ノ事　村　奥之寺ニ在ル石碑ニ
第四之　仰付ル　村　真壁山　林正寺
風雲庵

三三

業ニ付ヲ　ヲ以テ　ヲ礼　ヲ勤ル　ヲ名僧ヲ　ヲ
等ノ　ヲ

三四

往古清野ニ成ル　ヲ　南基之石塔　信牌
清光ト刀一振　ヲ持清野家ヲ　ヲ
持清野事　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
信牌　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
卯歳ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
観音庵ヲ古松ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

朝日観音安置　ヲ　天奥
等ノ　ヲ

三五

朝日山　観立　寺
村　神龍山　禅透院
号　ヲ　ヲ　ヲ
ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
ヲ

仕宮改三年 浄泉山花蔵寺ト改後ニ天要院様 猶徹院様
等牌所ニ而ハ無之候所ニ御位牌二通ニ而ハ不宜候間
浄泉寺ニ預ケ置候ニ付 東照宮御位牌ニ而天永ニ像ニ而ハ
無之候ニ付 御寄附ニ而 御再建見樹山報世寺ト号シ 佛供料
弐拾石 合高 見樹山 福昌寺
三ヶ境内ニ而ハ無之候ニ付 御除地ニ而 寛文二年ニ而ハ無之候
延暦年中ニ創営当国ニ而三所ニ而ハ無之候
一面観音安置ニ而ハ無之候ニ付 見樹院様御
位牌 御先代ニ而ハ無之候間 見樹院様御名碑 尊牌
ニハ無之候ニ付 御同様ニ而ハ無之候ニ付 棟札ニ而ハ無之候間

信州河中島埴科郡倉科村 見樹山超世寺者当
国三十三所第五番札所也久及廃壊堂宇失基
処本郡城主息女超世院殿秋月妙奄大姉并家
士小山武兵衛尉幸次 小山與兵衛尉廣幸 捨財
謹造建十一面観音大士金像再興之者也
伏願以此功徳 佛日増輝 皇風永扇
我等與衆生 皆共成正覚

寛文十二壬子歳九月吉辰

奉行 小山武兵衛尉幸次
同 小山與兵衛尉廣幸
當所外護 宮下七郎左衛門
南野九郎左衛門

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

中興開基起世院殿秋月妙菴大姉

奠縁主妻　自放紋石等　大工橘氏宮下市兵衛　永野与五兵衛　井上傳兵衛

寛沢源之丞　千塚忠兵衛

杉山新五右エ門　高池七左エ門

木桜宮本七郎兵衛

名和村　成就山　大善寺

三表　境内除地

寛文年中　見樹院様御開基　本尊大日如来　御安置　御位牌

奉安置　従其節　御政相開来ル

四表　除地　五反七畝十七歩

問村　清涼院

寛文十二年　見樹院様御開基　清涼院殿　御院号ヲ共ニ相唱ヘ

境内繁木ノ有ル場所ヲ　御殿ニ移シ　先年ハ　御政有ル事ニ

候ヘ共　其後五間梁ノ

大寺ニ有ル事ニ

四一　往古ハ天台宗ニテ　淺名　楼岳　寺号　清涼院

ニテ西ヲ務ル寺ニ相成　永年中　焼失　仏書ニ品々ヲ

立ル二振有リ

四二　御朱印拾弐石

三代将軍家ヨリ　御朱印頂戴　山王祭礼ノ節　神事ニ

有ル事　翁子ニ長完年ヨリ頂戴仕ル

問村　白鳥山　本覚寺

矢代村　法花寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

国分尼寺ニテ和更往昔郡山田村ニ往何時ノ程ニ移リ爰ニ宮トナリ山王宮ノ
別當 [illegible]寺ノ鎮守トシテ [illegible]ニ神興迎ヲ行ヒ神輿ヲ
入ル例ニシテ国分寺往昔ノ法ノ焼ケ今ニ弘法大師ノ堂ノ存スル
是ニ同堂ヨリ法花経ヲ奉安シテ以来ニ至ル迄ニ毎年正月元日ニ
ニ至テハ寺僧仏前ニ於テ法花経ヲ読誦ス云々ト云ヒ
右ノ如キ二寺村ニ寺社ノ存スル上ハ
但村人ノ移住シテハ北條氏兼時之孫ニテ尚基ハ
天章院龍山嶽騰雲居士ト申姓氏不詳享保年中雷火ニテ焼
失由緒不相分候ニ付其儘ニ住持義譽八十一才ニ老筆ヲ以過去帳ニ
記置候趣意ハ元来森村ニ寺跡有之寛弘年中敷山ニ座主慧
心僧都善光寺ヲ矢ノ倉ニ移シ此地故鍋ヲ留メ阿弥陀院
ノ像ヲ彫刻シ別時念佛修行ヲ新柄浄土九品之蓮花感得ニ故
ヲ以九品林生蓮寺ト号其後年来及衰地ニ不足山ニ長樂寺之
道徳ニ依テ地頭ヲ始依不浅坊舎造立寺領ヲ寄附南原村ノ蓮
光寺上福祢村ノ常行寺寺尾村ノ長明寺海老村ノ安養寺松代ノ
大信寺西條村ノ西樂寺六良野ニ移ル由ニ旦又先年上徳河村
辺ヘ大守様御野懸ニ為御入住特親尚御見申上御歸
後三寺論地ニ於テ相互ニ鉦ヲ撞論ニ付御役所御吟味ノ
上御寺ニ復シ尚又御役所ニ於テ相対ニ而寺社地常ニ為ニ

仮、且延宝年中従 見桝院福源院被申渡候
旨ニ付

栗佐村 受乙山 永代寺

一、
慈覚天海ノ作ノ弥陀一躰 弘法大師作ノ観音一躰
右ハ依テ永代寺ト号ス雪舟ノ画等有

一、
除地拾弐石
見桝院様御寄基ニ而寛文ノ年中本堂并用捨ヲ節ヲ通荒増葺
ニ不及其節ノ御人ニ而ヲ通不残取毀候ニ付寄
一、御位牌壱基 一有
一、御朱印 一巻
一、御煙草盆 一面

新地村 泉田山 耕雲寺

一、除地合ニ弐拾八石

本郷村 宝珠林 長薬寺

寺ノ

日向延岡堂塊創

貴洞宗ニ而祖乾臣和尚武田家ヲ以依テ天文年中甲州巨摩
郡青柳村ニ一宇建立高雄山耕雲寺ト号ス其後当郷南條村
ニ引移龍田山ト称ス元和年中 大守様御入藩ヲ御引続浮ノ禮
ヲ以テ寺領御朱印ヲ頂戴ス其後南條村ニ寛永金井横尾
ト四ヶ村ニ相引ノ地ヲ以テ 是又村上ニ移ス依テ旧家ニ而地蔵尊有ニ付当村
ニ而永代寺中不除地ニ而有来ル事ニ付来ル午ノ年迄有之

武田家ノ二通有之故書

耕雲寺ヲ当村ニ移ス事ハ元和九年癸亥八月廿六日ニ而有之候

寛長九年申

辰ノ十一

旧記無之寺院

御朱印於有　田文郡　尾鷹山　浄福寺

天台宗元亀年中　同郡　〃　〃　阿弥陀院

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

一 聖徳太子御作

一 菩薩立像

一 薬師如来 弘法大師御作 長一尺六寸

右之寺内剏礼文政年中焼亡之節一緒ニ焼失仕候

一 御朱印 寛永年中

一 御朱印 寛永年中

一 御朱印 寛永年中

辞文天ヨリ後 曲毛御殿

右之通御表運法長久之法門ニ候間
自然次而御参詣之
節ハ
宿ニ立寄
可申候 以上

曲閑寺
行列川中島保科
廣徳寺

今浄候ヨリ拝領申之通

一 蓼汁俵物 少引 一箱子指牧
蓼陸俵 貳拾丁二張

但陸月元番ニ而 御通申之間
可致其心得候 以上

隨意會免牘左之通

保科弾正ヲ高井郡ノ人ヨリ誤ル
筑摩ノ誤リ
伊奈人ヨリ

免牘

信濃國高井郡保科郷岡嘗山廣徳禪寺保科弾正尚基之古蹟而大源派下松庵壽永尚法之衆陰矣這回見住慧雲長老特来懇求隨意會并會下称号依而斜數敬委曲更有永世護持之驗證故三詞一返而許可之畢將来不混常住両會徒輿行隔中間二三歳一回如宗規可執行焉

天明四甲辰六月廿日

大中寺 大雄印
龍音寺 宏龍印
絶宝寺 摂牛印

信州保科村
廣徳寺

保科村
廻 命 寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

永禄中久保伯者之宅基ニテ同人石碑有之　且又京都紅雲院由緒有之石碑
位牌等有之法衣類少物等寄附有　境内ニ
竹藪見相動有御図面ニ役所ニテ
ハ除地頂戴罷在候

一説初大峡院
トモ云フ云云

大峡但馬守廣綱之祠基宅山小山村與國寺順竟和尚ニテ廣綱ニ依請待
住職ニ所持古書左ノ通

天文中得宗相模守趣後ニ奉其方ニ安土ニ住甲州ニ降リ本領ニ復ス後相模守ニ兵ヲ退ク数ヶ所小山城ヲ焼ト云ヒ此人ナリ

奥ニ筆作持職順竟ニ託宅ヲ
前代ニ必ス一書遣スヘキ事
天正六年戊寅　極月廿日
小山光永　判
信政　印

法性山　下八甲村　大廣院

大峡但馬守ハ十二
氏ノ老臣ニテ城墟
八甲田上ノ河ノ山上
ニ在大廣院ノ西ニ
甲州ニ後大峡ハ
本領ヘ帰リ廿七ノ領
ニテ候取タルニカ

山屋敷ニテ会於ノ文ニ永ヲ
云ヘリ　ヲニ文ハ久ヲ方ニテ
井ニ寺ヲ山屋敷ニ
為ノ体

天正十年丙戌ニ
退去順竟東雲ニ
依テ南下

福島村
光明山　西福寺

七

寛保二戌年八月ニ水難ニ名寺中ヲ
ニ亮ニ天文子年ニ来大小ノ
是ヲ歎ヲ文ヲ降ニ来像一

…田右田條と以寛保元酉年井上村より井上陽岐寺清宗墓ところ
引移ル由

六

吉兼不替ニ略系圖左ノ通

原本不整系今改ム
圖ニ據リ校正ス

清和天皇 ― 貞純親王 ― 經基王 ― 滿仲 ― 賴信 河内守

賴季子 掃部助 從五位下ニ叙入道法名行增 住信州井上鄉 宗祇 廣金

滿實 井上三郎 後陽岐寺 章名 次郎 葛政 名針賀 元来廣金此時從 源賴樣葉依葉 針賀 宗祇老後當國柏原 剃髪 號唯佛當山之南墓也 葉陽岐寺

遠滿 光 井上太郎

滿平 光 時田三郎

家滿 光 米持三郎

盛光 高梨七郎

敦村 井上小次郎 陽洲井上祖

光長 桑洞四郎

清繩 時田八郎

義遠 小坂九郎

光賴 小坂小次郎

清長 桑洞四郎 忠長

爲實 須田小次郎

敦忠 弥平衛門 志深登 桑山峯當 師觀 慰名湛 名衛門本國曽祖唯仏之 已下欠文

唯仏 兩實ヨリ

唯實 唯性 敦忠 以下中畧

五代 唯隆 弘安三庚辰年同國水内郡平出ヨリ移住

七代 唯榮 康永二癸未年同國水内郡井山ヨリ移住

十四代 唯覺 此時甲信兩國軍勢於彼寺中悉燒失 依之武田信玄公ヨリ 長尾景虎 永祿三庚申年ヨリ 信玄公ヨリ 當寺當院領狩藉 免許之朱印 永祿十丁卯年ヨリ 信玄公ヨリ 寺中竹木 伐採之朱印 天正二甲戌年ヨリ 寺中竹木 伐採之朱印 慶長十二丁未年ヨリ 當國之有郡 福島村ニ 移住

十五代 唯淳 慶長十二丁未年ヨリ 當國之有郡 福島村ニ 移住

二十代 隆水 當職 今川昇進

福島家安藝守備後国之節寺領寄附之
盛高之刀宇津邦高之書并備後守殿裝束一通
裝束之長持仕候時用之風呂敷
一脇指　一本　一拳壹　二ツ　一幅貳　一通　一小袖壹領

出雲郡
横濱山　温泉寺

陸地五石

嘉永三年京都妙顯寺虎渓禅師
續弘法二辰年曹洞徳忠禅師入院永禄四年八月戦神秀
受戒又誓曰温泉一流代々自然一石之無後塔を布施をくし徳忠
一代救燈之故由　又七年武田家之再建永浅寄附有之元和

單年代度稲垣氏之寄附之所永禄四年申之火災ニ依て武田家
公之寺焼失今當而已有之　元禄十年之通御朱印寛永十年向寺領
寄人今相絶并ニ　伽藍十六ヶ所末山十寺檀家千軒有之
修業等有之通

覚

一　出雲郡温泉寺領横濱之内
右之寺院ニ有之文書
永禄七年
　　信州
　　温泉寺

信州之寺郡温泉寺領横濱之内
右之寺院ニ有之文書ハ今當寺ニ所有之候
永禄七年
　　信州
　　温泉寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

元和（八ヶ）年寺領無之寺院

薬師記無之寺庵

寺川西村
医王山 東光寺
（立）
地蔵庵

上八ヶ村 妙徳山 真光寺
下八ヶ村 吉祥山 松源寺
但矢村 羽黒山 長福寺
福嶋村 無量山 浄國寺
小川之内 鐘堂山 廣圓寺

大室村 小泉山 永福寺
東当村 慈眼山 善福寺
小出村 西光寺
（立） 常照山 東明寺
仁礼村 宝珠山 白鳳寺
（立） 妙徳山 高顯寺
瑞雲寺 瑞龍山 白岩寺
（立） 多寿山 神宮寺

大柏村 夢の山 大圓寺
（立） 護国山 龍水寺

佐部村 万福寺
陽田甲村 玄敏山 梅苑寺

横田村 観音寺

古天下、疫病流行ス爰弘法大師一刀ノ礼ヲ十一面観音ノ像有之依テ慈眼山観音寺福壽院ト号シ其後横田備中守重再建有之今ハ伽藍ト雖荒無場ト申所ニ有ヲ省ヲ二王門跡ト申所ニ有ヲ其後火災ニ二王之像ヲ三水長勝寺ニ相移候

横田村ノ内多所藤宮ト申所藤権現ヲ宮祀ト申柳有之所元禄十年ニ宮建立藤権現勧請ス且又伝中古屋敷ヲ内氏神ト伝ヘ共過ヲ証拠不今ヲ有ヲ

一境内除地高三石餘許第一ノ行者
一先住曰ク代ノ間ニ有ル事故ニ依テ
一宝暦年中寄附ニ依テ
一檀那村ハ先年ヨリ
祈願所ト
一先住圭山六十八世ノ
宝筐印陀羅尼一万五千巻
讀誦依之
一文化十二亥年寺内ヨリ
御朱印拾五石

曹洞宗

本寺遠州久野可睡齋也

開基
桑原左近将監

龍王堂

相傳在昔
常生大雲
蘭森珍禽
目禽龍王

一
一

曹洞宗

開基吉城法境内ニ有之石碑今以有之且方近将監ノ
古候跡ニ今ニ石垣ニ
ム天文天和ノ
一将監ノ
一里人ノ

龍王堂

相傳在昔
常生大雲
蘭森珍禽
目禽龍王

井上系図桑岡二郎光長ト申候ト云ヘ
桑岡氏ノ祖ナラン井上旗役新貫ト云ヘ連ナル
ナラン
斯記後人之偽作不足取者也

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

飛揚東南洞口燈矣所謂竜燈也可謂靈境乎應永中如仲間
和尚築桑之日戻止此地一夜迅雨晦暝定裡二異人魅服龍
顧掌捧寶珠羽衣爲菊手執利剣進而長揖云此山最靈宜梵
利維我二人爲擁護師可曰不知卿等是何人斯異人跪云
諾非人也其秋葉之神也仰止師徳故遠來勸請某此山池竜
也法華會上親受化故不懈護法俟師于此地久矣於是師有
感起和尚卜地西麓再造琳宮山名桑原院改竜洞也矣今此室号
竜王者不忘其本記也

一大猷院様御時代御當家御条印ある文書拾五石山縁境内之儀下 御条下
一小田切備中守殿寄附状有之通
○天文十五年六月廿五日 元文留
氏四郎ヶ領之事より當氏何ヶ
領之ニ付
一松山道二之事ニ付寄附状有之通
一光山道二之事ニ付寄附状有之通
一新御殿 安藤帯刀 安藤帯刀 安藤帯刀

寛基之帝朝下向五重塔頭宗重之家ニ此間刑部ト号ス人後刑部ト改ム後近江國ニ移ル新其子民部ト名本山ニ代目覚如ト云フ子ニ改法名浄心ト號ス其上自筆ヲ以一幅ト為今ニ不替ス其後當國一乗敬永院ト名付傳法通弘ト改後慶心代本山ニ於テ寺領ヲ賜ルヨリ其後川中島合戦ニ頃當寺住職ト為引移ト号ス慶心ヨリ當代迄十五代数百年ニ及ブ

今泉村天宗寺末　當寺ヲ住

永禄年中　宗圓能登ヨリ来開基ヲ勤ム其後ハ代々ヲ以テ勤ム

今泉村天宗寺末當時ヲ住

大岡村　當寺

全　西蓮寺

西寺尾村
松面山　浄真寺

境内　拾八間
十六間九畝十八歩　中畑　十五間
十二間六畝歩　右往古ヨリ除地ト

一永禄年中師圓右衛門開基ト和其後衰微ス

上五明村
天照山　西教寺

弘安年中村上義氏侯ヲ開基ト為ス後文安年中村上頼房侯中興ス於
満泉寺右當寺ヲ法事修行有ヲ
廟墓有ヲ西教寺ヲ以テ菩提所ト
弘安年中村上義氏侯ヲ開基ト為ス後文安年中村上頼房侯中興ス
後叙従三位ヲ依テ吾寺ヲ時建武ノ乱起ヲ入尼寺ト
其後代々ヲ以テ西教寺ヲ号ス女子二代ヲ住
南朝ヨリ數武功ヲ

西教寺ハ北條氏ノ菩提寺ト成

桜諸本村上系図及諸家系譜義氏ヲ其他事蹟ノ見当ニ書ヲ抜萃ヲ説不足取矣

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

源五国清自殺
録于故郷天正
十六年也二十年ハ
当年迄而村長
全七千餘名ニ至ル
筆ヲ

望ス文安年中ニ當リテ中將入乃後従三位
尊ミ他寺ノ所也年来荒廃ス天文年中ニ至リ近其地南存坊ト称スル
三月二世中將信玄ニ攻亡ボサレ信玄ニ為ニ焼亡ボサレ
ル六年吉中古花園院（従二位下右衛門督ニ任ス）ノ御
祈祷ノ為ニ大暑ヲ企テ再興ス而ハ故ニ依テ記録ヲ
欠ク年月

文政三年九月

當山寺基ヲ占ム　故吳村上氏ヲ以テ源公（諱義光）弘安年中一寺ヲ建立シテ西
教寺殿ト号ス二世ノ余ニ焼亡ス山林原野ノ外免除ノ
御證書後従三位ノ智　大檜是
後ニ破壊ス其後存ス年中將入乃ニ源公御證書後従
利義光）弘安年中當山ヲ再興有テ而ノ如
ク文安年中當山ヲ再興ス而ハ故ニ依テ記録ヲ欠ク年月

西教寺入乃ニ記ス
村上某處

（後従三位
ニ叙ス）西教寺、改造建立ス（也）

元亀ノ頃存坊源公（諱義光）ノ御證書ヲ以テ
武田信玄其志ヲ恐ロ一山ヲ亡ボサンコトヲ
企ツ公ノ境内ヲ侵ス是ヲ以テ公ノ領民
恐傷ノ一里ヲ術　善ヲ守ラン為ニ大軍ヲ
率テ逆徒ヲ城中ニ敗ル破却悪ク焼亡ス是ヲ以テ
家伝山王御證書ヲ始メ諸ノ寺社ノ証書ヲ
悉ク焼亡ス天正年　花
園院殿公ノ御證書ヲ再興セラルヽ事ヲ
ヤラント思ヒシカ余ハ故ニ依テ記録ヲ
欠ク年月

文政三年九月

西教寺
住持阿闍梨

村上某ノ
（朱印）

吾妻将監
家宗（朱印）

源五国清
（朱印）

敬満（朱印）

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

武田信玄川中島合戦之節当地ニ陣ヲ敷信玄像ヲ安置ス
開山像ハ長一寸ノ建立有之ト申伝ヘ
若宮村　稲荷山　八幡寺

佐吉後神社八幡宮
寛享七丑建立ト申伝ヘ文書等不知　元和年大火　巻失
中古当所再建有之ト雖モ文書ハ元ヨリ無之
若宮村　稲荷山　八幡寺

一　天喜度棟札等額二面　一仏良後神社額
吉田屋敷
一　奉納札　文亀年号有之　一社殿中候二帳　但絵図面一枚
一　甲冑一領　一八幡宮額一面
古キ二ツ有之
一　弁財天木像一体
一　甲冑一領　手甲弐領　脇当一ツ　右ハ元ヨリ無之
一　石柱五尺余ニ而石室塔有之　文字ハ
一　源頼朝公御朱印一通
謹白願書
右願書者国家安全武運長久息災延命
為祈念也然者依神者人敬増威人者依神
之加護縁運勿奉仰素願成就ロロ如件
建久元年庚戌二月十五日　源頼朝　判
ロロ　判
ロロ　判

八幡大菩薩
宝徳三己年迄四十年社有之所火災焼亡又上申傳ト
西幸尾村　柳澤山　西法寺

宇基西如俗住ハ勧請ヨリ第下ヲ柳澤ト称ス
浄土真宗

明治四年幸来
之報知ニ而時俗
姓ヲ西尾ト改ル

父子親鸞聖人の弟子と相成而如西教と改名之
像一軸賜ると申ス七代目西精當国之下ル少ク
言宗之寺院計有之候ニ付當寺号相續之ハ
當院ニ而ハ無之候ニ付當寺相續之儀ハ
候ニ連中ニハ勤務ニ候ニ付ハ
玉章等ハ勤務ニ候ニ付
候ニ付
法事之節
一當寺中末寺之内ニ而右西順子西精ニ川中島合戦之
公事ニ通書物ニ而候ニ付合戦ニ図面ニ指置
候ニ付

寺格等ニ付
書上ケ帳
當寺ハ開山
ヨリ九代迄ハ
杵渕村
松樟山
典厩寺
ト号
其後信繁
公ヨリ
寺領
ヲ
寄附
ニ付
典厩寺
ト改号
ス

を五拾八石ニ而
除地五石
寺領ニ而
杵渕村
松樟山
典厩寺
ト号ス
其後信繁
公ヨリ
寺領
ヲ
寄附
ニ付
典厩寺
ト改号
ス

徳右ニ何宗ニ而候哉又ハ開山ハ何国之
典厩信繁公御代ニ寺領ヲ寄附ニ付
永禄年中従
天正郡村絵図ニハ典厩寺領五石ニ付
ニ付
前条ニ記ス通ニ付
別
ニ付

典厩寺

三水村

一元ハ禅宗
一境内仏像何体ニ而何ト申ス
一仏具
一什物

一法流
一道具
一本尊
一仁王
一鰐口
一梵鐘
一石塔
一位牌
一過去帳
一寺領之儀ニ付
一天正郡絵図
一寺号之儀ニ付
一由緒書

三冊
一冊
一枚
一枚
一冊
一冊
一冊

一 開闢業當年迄二百廿年余而
一 開山并ニ号ス新程住ス傳ヘ有ル
一 見程綠住ス堂舍再建ス
一 見程綠當年百廿回 忌辰
高ムロ大都ハ
元和八年ヨリ
正保ニ至ル迄

佐房村 蓮照山 安養寺

佐房村康樂寺十一代目浄林二男ニ
宇建立開山ス称ス其後正
其後高ムロ御城内ニ移
又太康樂寺別當故阿闍梨
末寺

徳壽山 宝昌寺

薬師如来 天長年中平惟茂ノ作ト
一 慶長年中ノ代紫雲長門守
祈除地ト
徐年号称名

宝厘八年 領原

赤田村 專照寺

一 徐年号 三通 一法流 七通
一 後奈良 一通
一 後陽成 一通

ス和尚法大師ノ四作ト
称依御下知ニ
ト称ス名七斗ニ
ス綠七年
以ス

專照寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

弘法大師右像 木像 獨鈷 三鈷 華鬘 花瓶 旛 右品什物今以入山

右由緒有之候間今以御室御所へ致出入

桑原村 佐明山 長福寺

藥師如来 行基菩薩ノ作

右当供免有之候間今以入山

云々

桑原村長福寺為本寺之末寺

文亀二年 旅僧

上福田村 龍昭山 多福寺

小杤谷村 明福山 天照寺

先年 天真院様若宮寺 御参籠之節

一 御祈願御書第一一日蓮筆之歌一紙

南無宗 福徳寺

開山ハ元徳三年三月十七日路田山大日堂ヨリ西寺ヘ引移ル筆ヲ執ル

年 若宮ヲ遷サセラレ相成ト共ニ寛保二戌年不残流失ス再

遷ノ代ヲ中興トス又日村ノ祈願寺ヲ兼ル

右之通相違無之候 以上

小峰村 入西寺

烟根村 金徳山 福泉寺

陰代武拾五升

往昔ハ草庵ニテ有之候処村上宗右衛門 福澤藤兵衛 両人ノ檀那ニテ

陰地ヨリ福泉寺ヘ引移シ候ヨシ申伝ヘ候ヘ共 天文年中村上家ヨリ

ノ勧請 唐鐘ヲ以テ十一面観音并陳太刀武器馬具ヲ始有之候 後

敷信家中善心あり。よりて後年幡宮并部等寄納ス

先住世隔出代　見樹院様帝建立其後天正年中
除地ニ墨令以許持之候ニ御屋敷ニ御寺
御手本ニ
相州鎌倉臨海宗寺覚寺佛光國師法嗣
和尚正和年開闢ス七堂伽藍建立之地也明應文龜之向山門僧堂鐘楼
五重塔悉焼失佛殿方丈而已相残洛宗十一代ニ而新後ス
阿弥陀堂　天王　行基ノ作

一建武二年護良親王大塔宮佛殿帝建立

一康安二年大檀那左典厩ニ而大鐘一口修復宗五代ニ而金鐘銘文有ス

一永正年中上州住栗長浄寺祥臭和尚洛中奥書四冊有之

一天文年中馬借美濃ニ而佛殿并後芋川越前ニ而大日那ニ
而買文ニ而願ニ

一慶長二年十月　大蔵院様御乗馬寄寺中ニ而十冥中ニ而ニ
并ニ而義作ニ而後御ニ有ニ

一文明ニ年ニ堀越御新大光寺宮ニ而ニ額ニ而菊御紋ニ
布着　同ニ張桃灯ニ而有ニ

一般若十六善神并子神仏画像　右ニ

一両一神　神体城ニ

一扇面　御歌并光実ニ

右之通ニ所書

御朱印格之石立斗

一 御朱印之事 一信玄公御宝印 山梨之中依之称之 一壱枚二仏躰 一百

勝頼四百石 一信玄公御宝印之写墓之事 但勝頼公以来毎年之御法事 一壱枚二仏躰 一百

方代ノ 一永楽銭九百文 但毎年長八月十五日之祭礼 (年ヲ)行云伝ふる日之事

茅ヶ野 一芋川越前守殿菩提之為 但天正九年二月日之年号到有之

城代 右越前守殿中興開基之法名并墓所之儀 不詳候故 一白衣之観音掛物 一幅 但先代様之御表具之事

一墨跡 一枚 但先代様之御事

一金屏風 一双 一大釜 壱 一大茶釜 一 一茶臼 一

右之等 代々領主侯之御宝物等 一

四谷村 龍昌山 浄蓮寺

元禄年中 如宝寺 浄土真宗末寺 一 浄蓮寺ト改

今泉村 聖雲山 天宗寺

開基 清和天皇第四皇子 淳和帝八世之孫當國之住人 神津神平

貞直 其民部時直建久二年秋笠置御発被仰付 其後 承久之兵乱 元弘之

乱共當國忠臣 住吉其後 祝髪 聖人と号ス 浄土宗 一寺ト号ス

應二年中春 祝髪 聖人従教後国帰洛於途中大内法華寺ニ住 一寺ト改

四年ニ 一寺ヲ今泉村ニ移ス

一往古ハ当村康楽寺別院之寺ニ而白鳥山松ノ寺ニ而行云伝ふる

日本年号ヲ以テ年号ヲ記ス

寛政十亥歳三月 一歩 当寺ニ住

開基 此面ニ云ふる利信之事実ハ当村ニ而生立大変ニ付当村ニ住居ス

大国名神社之代村

常應寺

安産寺
[illegible]村 大同山 真光寺
[illegible]村 一心山 浄念寺
大[illegible]寺 地蔵庵
大[illegible]寺 成住山 長徳寺
[illegible]村 [illegible]山 和法寺
上[illegible]村 白石山 源忠寺
中山[illegible]村 長年寺
[illegible]村 徳善山 真福寺
〃 [illegible]寺山 密蔵院
吉原村 医王山 光明寺
中牧村 [illegible]山 清水寺

[illegible]寺 [illegible]山 桂寺
[illegible]村 全村 善龍寺
[illegible]寺 日輪山 金光寺
大[illegible]村 [illegible]山 不動寺
新山村 剣城山 光性寺
南原村 光明山 蓮光寺
[illegible]川寺 [illegible]山 福寺
志川村 法城山 [illegible]国寺
小[illegible]寺 法性山 浄境院

〃 聖山 高峯寺
[illegible]村 大国[illegible]村 高蔵寺
[illegible]寺 帝安寺
山[illegible]村 大渓山 福泉寺
[illegible]寺 仏性山 善光寺
〃 [illegible]山 正明寺
吉[illegible]村 仏心山 法福寺
上山田村 [illegible]谷山 東国寺
〃 [illegible]山 善[illegible]寺
下[illegible]村 [illegible]弘 善法寺
〃 法[illegible]山 智識寺
[illegible]村 光福山 [illegible]徳寺

[illegible]原村 宝珠山 浄光院
[illegible]寺 亀兒山 光林寺
[illegible]池村 [illegible]南山 善[illegible]寺
〃 [illegible]寺 常[illegible]寺
[illegible]寺 一法山 [illegible]生寺
[illegible]寺 [illegible]山 真月寺
[illegible]寺 五[illegible]山 常松庵
[illegible]寺 建立山 常[illegible]寺
[illegible]寺 [illegible]山 善法寺
〃 [illegible]寺 [illegible]寺
[illegible]村 光福山 [illegible]寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

○ 郡名

石川村 葛雲山 真珠寺
〃 一重山 泉福寺
〃 宍郷寺
上堤村 三足山 宝明寺
山子村 就光山 宝蔵寺
山子村 年玉山 観音寺
川合村 二重山 岩柱寺
〃 藤牧村 佛日山 東昌寺
中沢村 花園山 中澤寺
〃 岐阜山 清心寺
午姫村 蓮生寺

水内郡

除地古石ノ山林稲ヶ

念佛寺村
眠月山 臥雲院

聖武天皇ノ御建立地ニテ勅迎 文殊 普賢 観音 地蔵ノ
観音地蔵ノ小像各一千躯行基ノ作佛安置ト申傳 永観年中迄ハ
普済寺ト唱今以寺ノ乾ノ方ニ舊跡有之建久年中源頼朝卿東國
下向ノ砌當山ノ勝地ヲ賞美其旨下命ニテ七堂伽藍造營有之而
八十毋貫ノ地ト寄附有之而後享徳年ノ後堂塔不殘焼失 嘉暦年中鐘ヲ之
仏寶禅師此地行歴ノ節樂谷ノ巌窟ニ入事三年 或時琴ヲ湖水ニ投
女形ヲ現シテ之ヲ住ヲ戒ヲ授ケ其時ヨリ忽雪ヲ拭ヒ如ク成ヲ其
巌今ノ座禅石ト称シ有之此所代詰堂再建眠月閣ト号ス景七
不思義ノ佳境ト唱永禄年春日修理大夫安曇郡大澤

鎌倉時代
貫文高無シ

大地震ニ
山崩地
陥テ高
下丈餘ノ異ニシテ佳境ヲ失タリト云

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

寺南堂和尚之時待し而建しそ二而貫之祀も社寺の附ゟ傳并基ト
称し位牌を安置し廟所と有之且又慶長年間平岡松雲斎か山林ニ
六石之寄之所以ゟ智申分於今不相持仕候
宝暦之火災ニ依テ悉焼失當時本尊等鐘
四躯而已安置 檀鐘ハ寛文年中鋳直し
作折ノ西福寺 地蔵寺 普賢寺ノ
追ノ住侶追ニ寂立仕 之千体ノ焼残有之
合テ千体佛當社ニ有之古代ゟ過去帳木作条件
除地三石弐斗五升 川村

當寺之寺社奉行ゟ申渡ニ而ハ無之候得共大同之年 御上村御書
面之趣ニ而ハ無之候得共大同之年 御上村御書
面之趣ニ而ハ無之候得共大同之年 御上村御書
面之趣

右除地之事先年紛失之由頼朝公
御寄附之
御判物并
先年小俣厩山門鐘楼四脚門有之由得共
于世住持之頃御寄附 金襴袈裟一領
寄附法衣一肩
真常院殿金山一提大ニ而
臨照院
山内中村 浄蓮寺
開基ハ郷士西山源蔵重勝と云 大鋒院様
陰位五斗六升
慶長年中ニ十ヶ年之内ニ右之通
頼朝公等屋敷分ニ而五斗六升ニ不足ニ付除地ニ
仰付置候ニ付其後ニ而ハ無之候ニ付
右之通ニ有之候ニ而ハ無之候ニ付
慶長五年庚子ニ
頼朝公等
新町村
浄蓮寺
除地二石
往古牧野備前守城之時馬場美濃守
厳室之内ニ相移ニ仰付置候ニ付其後
とかく断ニ而
大澤院様右之
御宝永年中

年中大英三世文岡和尚勧請寺ト隆昌ス
ル事ナリ

宮野尾村

天正年中大蓮社慶誉英言居士　正覚院様御位牌御霊代ヲ奉ジ来リ当寺ニ安置ス
一婦夜沙弥像　一尊　一日善一日ヲ始メ灯一張ヲ献ズ

金村大句祖
日月山　方廣庵

往昔戸隠山別院ヨリ出火ス仍テ日月山正覚寺ト号ス在リ日月山不幸ニシテ焼失小院僅ニ焼残ル祀職ヲ辞セントスル時ニ当リ方廣院ト号ス天正年中大飢饉ニ方リ亜ク逃亡ス後再建仕方廣庵ト称シ今以テ山ヲ方廣山ト云フ

除地三斗三合

入山村境内
岩戸山　観音寺

往古ヨリ七ヶ寺ノ惣社惣鎮守別当ニシテ当寺ヲ惣神主ト称ス寺号ハ永禄年中ニ改ム
田家ノ永禄年中文安所ノ甲作宅山ヲ庵室ト定ム
年二月十五日迁化ス

里稲苅村

安光寺

先年ヨリ住日様ヨリ口記ヲ以テ住ヲ相ヲ許ヲ鐘銘文ヲ通ヲ

鐘銘文

信陽霊區　有隣不孤　小笠原姓　揚旗蒼郊
曽建宝山利　久間法爐　霊亀負地　梵鐘出模
鐵面星動　洞頭雲迁　聲字実相　吼犀河晞

小笠原氏復入信州
ハ天正十年武田家亡
タル後ノ事ヨリ之後
ノ年号ニ疑アリ

阿字懸示　鄉帝豊山嶺　頓鎖三毒　直到仏嚮
徳無量寺　福是宝珠　擁護忍士　長鎮皇都

文龜元辛酉七

文龜元庚年三

因ニ記ス往四年未三月大地震岩井ノ山崩レ厚サ
リシ時是鏡樓ト共ニ浮テ漂テ三小ノ辺ニ至リ再ビ廻ラシ
里人縄ヲ繋テ曳ク為ニ水引ニ懸テ動ス衆力ニ依テ
鏡ハ儕ニ造テ地ニ横ハリ下流ヲ望ム深サ数丈ノ
井アリ水引ヲ以テ之ヲ窺ヒ井水数丈ノ底ニ
十丈ノ下ニ没シテ一陽ノ陽ヲ深ク
ささの竹筒ヲ以テ羽ヲ入レト同
一井ありしと名ハ忘れり武ノ遺記

御朱印十二石

笹子村　正源寺

天正年中ニ宥慕開山暁誉慶長年中平同松雲斎ニ勇ヲ表ス
我ヲ称ス依テ其ヲ賜ル　信之公御入部後右僧ヲ
慶ス故右ニ記ス　弟化ニ御朱印ヲ下ス　但寺
若ヲ手傳仕其後再ニ水災ニテ悉ク焼失ス

揚佐村　天長山　久昌寺

除地八斗弐升

本堂ハ元慶長年中ニ建ル所ニ寛文ニ至リ再建ス
本堂ハ元慶長年中ニ建ル所ニ寛文ニ至リ再建ス
本堂ハ元慶長年中ニ建ル所ニ寛文ニ至リ再建ス

久昌寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

宝暦年中ニ至リ御免之方運被ル
おゐてハ

慶長年中ニ至リ御朱印寺領
被 御免許ニ而ハ
ニ而ハ

慶長九辰年
住持
菩提所

陰代寺名

往古ハ
ニ而ハ

兎毛村　松巌寺
岩室村
富景山　性高寺
松雲寿
宗寿五列
松雲村
智宝山　常光寺

盛細佐ヶ木三郎
左兵衛尉宅加地
法名西念 佐ヶ木系図

ニ記ス処ハ未タ以有ニ非ス
若聖遠而笑ヲ被細ニ考ル時ハ
ニ而ハ

御朱印寺
住持
菩提所

大日元年ニ記ス
正観音弘法大師ノ作ニ而
辨才ニ而ハ

建仁元年四月佐ヶ木三郎盛綱御
寄附ニ而ハ

越後長尾城ヲ攻落ス

小市村
鞍山　称名寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

佛之後更移郡長谷村極楽山福寿寺ニ宥慶山西蓮房ニ教父之像
ヲ康樂寺ニ御記之
天福元年依師命古今作法ニテ供養之後郡長谷ニ住常山ト記之
し韜晦ニ而已ト云
右之通ニ有之今又長谷村ニ教仏之
大鋒院様　真常院様ニ御代ニハ住持ニ御成ニ而已
仰付ト其節ニ之後人ニ不書ニ之通ニ住持ニ仰付来ニ而已
一御紋附ニ幔一御紋幕ニ有之長刀
一大永十年於御所御拝領之和歌
右之一通計ニ有之

極楽寺修業寺ニ而
文書全文日ニ有り

長沼西覚ニ衆并ニ教仏之名
ヲ衆并ニ乱妨狼藉等ヲ堅ク禁制ニ仍而如件
永禄十一年戊辰
十二月廿九日

小市村
普賢山　多宝院

先年ハ菩提寺ヲ院ニ中ノ新村ニ在ニ天文十九年ニ小田切弾正ニ菩
提所トシテ今ノ地ニ移ト仍菩提寺ト分身仏一躰安置仕ニ依テ
ヲ開基従ノ由ニ申ス事ニ候有ニ候ハヽ先年焼失
下ニ而

小市村
山崎山　西光寺

同山作慶ニ宗祖祝髪ノ画像并ニ自作ノ阿弥陀ノ画像并ニ十字ノ名号
ヲ授ケ庵室ヲ建ニ数代住ニ仕後年本山ノ山号ヲ与ヘ末寺ニ仕候ス

中之新村

藥師山　観音寺

漆田氏語るに
文亀二年漆田川アリ中之新ノ名古ヨリオル

本尊髪観音、頼朝尼寺仏にて金仏丈九分二朱
金仏ニ寄寺ハ又地蔵一躰ニ寄寺ハ漆田生駒寄進ニテ漆田
年漆田村ニ喝喜永二年頼朝尼智満ニ命ニテ
光

漆田公朝寄附、五十四方程ニ口所ニ古名所有ニ名記
考文明中ニ
日五年ニ九年ニ
改ニ城ニ入ル記

法性院貞心法尼　裏ニ　俗供料　二石二斗五合

明ニ元年三月九日

右位牌ニ法ニ御殺牙墓ニ刻ニ彫付ニ候所ニ
後ニ中之新村

二法寺

寛保宝ニ永ニ年火ニ古書ニ焼失ニ代ニ前ニ
後ニ所ニ

寺長岡ニ元ニ古ニ礼ニ上書ニ写ニ
海岸墓ニ三世ニ
年ニ
ニ男浄空正覚寺ニ

郷ニ信者ニ世ニ孫順哲ニ二男教哲ニ正法寺ニ
屋敷正法寺屋敷ニ
長岡ニ引移正法寺ニ
宝暦七年　御先代様法華四ニ等ニ

札ニ

　　中之新村
　　鷲苑山　常福寺

署印墨川平ニ古ニ有ニ不　正覚院様法華
風岡村ニ及田中ニ不ニ引揚慶安元年法
法印校本山ニ喝ニ鶴苑山ニ不退院ニ義ニ

トナエ除死願義若シ、ニ先年法華堂ノ鳴ラ
節ノ住僧拝領ニ出タル通有来ス

一法役貧多ノ　一日参　一日抜打　一例廣福寺長持一長カモ飛
　除夜ノ名境内　　久保寺村　慶長栄山　正覚院

大塔物語ニ高
松左馬助宗継
隆寺観音ヲ　李尊十一面観音行基ノ作往古ハ井沼方村ニ在
剃髪スルヲ
見ヨリ
鳴ル場所有ル其頃陣場河原川谷村ニ合村トモ称有テ福花川ハ萬科村ヨリ新田ヘ
往古岩川ハ投ケ入テ七郷村ニ流ル九反組ヲ向ニ米村有ヲ
島ノ南ヲ流レ
慶長十六年ニ　并ニ霊覚ト作聖観音慈覚像ヲ朝日山ニ
子壹寸壹本鳴ラ
其後元ノ地ニ移ル千手観音ノ像ハ教中国ノ
侍ヲ再ビ高取
ラ富キ大堤　乱ノ節依テ思有縁ノ為ニ人寄来当村大門ニ
ラ築テ改北ヘ
川ヲ移リシ由ニ移シ今以右ノ大手ヲ孫ノ当堤ニ野界川ヲ
ノ除ノ如ク仏ノ如シ

記所行左ノ如シ

一観音堂ヲ馬ノ額ニ枚有テ堂永十年四十一年ニ渡ヲ納ル奥ハ
各画ヲ境内ニ並七折ニ草ヲ文ヲ孝ヲ文元丑年正月又ハ
文元禄ノ代ヲ初ノ額ヲ有ヲ

千田村
掌仏山　専寺　福寿寺

往古羽院ノ草創ニ而鳥羽院浄光寺ト
称ヲ寺ヲ有ヲ中頃ヲ住僧ヲ而村ニ住長ヲ寺ヲ福寿寺ト唱ヲ
当寺住職ヲ寺ヲ相成ヲ住火災ニ依テ今残不ル堂ヲ
祖師ノ祝髪ヲ像ヲ取ヲ徳大子ヲ木像各寸ヲ
除ノ名境内ヲ
貞元年中勅願法ノ寺ヲ回国ヲ節ヲ

修業山号ト称シ朝仁ト称ス故ニ法名大
将家ノ上ノ屋村ニ移ス不百名寛永十五年
吾虎ノ祝西 洞誉春虎ト申修行職業相続ス四ト
念寺以下十ヶ寺 御代中ニ九條法運尚ニ第三ノ弟仏ニ為一
ヲ同時ニ号ス 寺ノ両山ト称ス 寺領ハ再建其外ニ寄附ノ
康楽寺之書付 同寺清ノ四室ヲ文字ヲ斧紋有ル
負保是ニ 清和天皇ニ皇子貞純親王(保)ヶ九代ノ後裔海野幸親ニ息男勢誉
文章博士職人道廣出家シテ南都興福寺ニ住シ両衆坊信教ト号ス
有リ所謂木曽殿ノ軍師ト成リ大夫坊覚明ト改江州大谷ヲ領シ後又
載寺ニ移ス

吉田村

善教寺

叡山ニ登リ慈鎮ノ門ニ入浄寛ト号ス往年祖師親鸞ノ弟子ト成法名西
佛ト改師命ニ依テ塩崎村康楽寺建立夫ヨリ十一世浄専今地ニ来リ
當寺完基以来唯今ニ相續仕候

南堀村

豆立山 長命寺

完基悉念坊道祐ヨリ八幡大永七年ニ徒弟ト成リ井上次郎盛長ヨリ嗣井上次郎道
祐ト系図ニ有テ且又室門二十四輩ノ内ニ有テ北上野村七ヨリ徒弟ト成来ル住ス

北上野村

護国山 啓就寺

享保十年ニ当国札所義務ス

御朱印拾ヶ寺

上水村

瑞雲山 昌禅寺

享保(保)年中ニ隆村箱清水村ニ於上ニ一草創ノ一宇ヲ以テ宝山天倫和尚
ヲ上州国峯宮崎ヨリ勧成立小幡尾張守寄童ト会等ヲ従是前明應

多河原白井ノ仏双林寺ヲ創営、国母井樂郡南舵（ナンザイ）井村ニ精舎建立シ最
奥寺ト号ス今以テ存ス其後修行ノ折柄一寺建立仕場所ヲ則吾兄寺堂ノ北松山ノ半幅ニ寺屋敷或ハ五輪平ト呼ヒ旧跡有ヲ且又天文弘治ノ兵乱ニ在坊上松村十王堂ヘ遷ル仮住居其後転越後ヘ引移同国頸城郡桑取谷郷ノ内ニ今昌禅寺卿有ヲ廃寺ニ相詰ル建永初歳洞泉寺ト申ス寺モ有之当時末院ヤ川中嶋合戦平定後隣村北上野村ヘ仮住形ヲ小地ヲ営ミ国船寺ト申ス若ハ跡ニ支院ニ曼天浄和尚ハ信玄大僧正ヨリ寺院ヲ場所望有之或ハ尋ヲ有上松村北徳和合墓ト予所項義仕ヲ中立今ニ於テ山林ヲ寄所有ヲ依古名称合ニ昌禅寺ト唱来和ヲ林ト称ス慶応山内寺宇不移住元和八年御入国以来寺領ヲ以田畑拾弐石五斗ヲ郡役等モ免遣ル候仍下墨慶安年中御再興ヲ以田畑拾弐石五斗ヲ郡役

御条目項義相徳仕ト

一 大洋院様御代お志やと千葉みつ廿五歳ニて
様ニ御乳名上ヒ而ニ御尋ニ上檀家ニ義甘持ヲ而拾弐石五斗ヲ郡役
御免ヲ多人ヒ而御料ニ成下境内境墓ト有ヲト

一 真常院様御代相澤様ヲ而ヲ右ニ義項義弐石下其母ニ
就徳院様御幼少ヨリ御乳元上而ニ御尋ニ上檀家ニ義甘持ヲ而拾弐石五斗ヲ郡役
負元ヨリ御乳元ヲ而ヲ義ヲ而ニ親ヒ厚ヒヲ多日 御成追而御呼近中上
仕職ト成ヲ而ヲ義ヲ而ニ者 召常 御意ヲ而ヲ御名ヒ而ニ義ヲ項義仕今ニ什宝仕置候ヨリ墓
来ル相徳ヒ義ヲ不動置ヲ而ヲ新後ヒ而ヲ義ヲ相徳ヒ義ヲ不動置ヲ而ヲ新後ヒ而ヲ
負元ヨリ御乳元ヲ而ヲ義ヲ而ニ親ヒ厚ヒヲ多日 御成追而御呼近中上
仕職ト成ヲ而ヲ義ヲ而ニ者 召常 御意ヲ而ヲ御名ヒ而ニ義ヲ項義仕今ニ什宝仕置候ヨリ墓

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

御立相澤東ヶ相徳仕候右寺ハ再ニ火難ニ而焼失ニ
仍テ寺号ヲ文ヲ其ノ中ニ仕
御手形ニ
明和年中上ノ寺村領主重政公位牌ヲ
奉ニ建立ニ大ニ火災ニ而焼失ニ仍テ
四ヶ寺ヲ

上ノ寺村
大昌寺
陰光寺ヲ改ム
永久寺
下ノ寺村
福寺
上ノ寺村
泉ノ寺
山上ノ寺村
天福寺
上ノ寺村
雲掃寺
上ノ寺村
永久寺
下ノ寺村
福寺
上ノ寺村
雲掃寺
上ノ寺村
正命寺
上ノ寺村
清光寺

日ノ出村
大明山
正福寺
上祖山村
金宝山
玉岑寺
追通村
弥勒寺
中牧村
化ノ山
蓮光寺
下牧村
行形村
南西山
元慶庵
西福寺
〃
慶福庵
栗ノ山
松山寺
大字ノ山
大字ノ山
昌福寺
水鏑村
聖村山
宝寿寺
腰村
清原山
西光寺

兎ノ平村
仏恩山
大義寺
下祖山村
白心庵
入山村
摂取寺
小栗見村
往移林
常安寺
石原村
西原山
常岩寺
〃
正命山
地蔵庵
北平林村
七ノ山
宝珠寺
相鏡村
六宮山
盛傳寺
高野村
乳ノ山
大国寺
西和田村
和ノ山
雲昌寺
北長田村
法輪山
常恩寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

安楽山　往生寺
日名村　飯縄山　常光寺
久保寺　吹谷山　西運寺
北上條村　二室山　金船寺
北東条村　海老山　東泉寺
御朱印拾石
御朱印拾石
御朱印拾石

神宮寺村　清村寺
修行村　雲山　十念寺
高野村　刈萱堂　西光寺
寺村　雲龍谷山　仏導寺
雲龍谷山　村条山　光蓮寺
竹生寺村　仏生山　金剛寺
寺山村　霊鷲山　法蔵寺
霊鷲山　万年山　明珠寺
之條村　鶴山　観音寺

社家　埴科郡

祝神社諏訪大明神

寛延四年未春吉田家ヨリ相願社号免許ヲ得

語訳宮神主　内山上総

山本ノ築城永禄三年ト云説是ヘ

後大条良院御宇天文十二丑年武田家ノ臣山本勘介築城ノ節當御城為鎮護ニ云々九幡請ニ依宮ヲ御移シ祈誓相勤ル其後両城ヲ合セ吉ニ天下一統ノ砌慶長三年戌田九郎當城ノ内ノ部後東条村ヘ遷シ諏訪大明神ヲ相伝祀社号相願候ニ付當国ノ惣社ト相成ト

田九郎実称通高慶長三年上田ヘ移ル此ノ時ヨリ社領ヲ減ス

慶長九年松平上総介殿ヨリ国役ヲ免許ヲ得

山本ノ築城永禄三年ト云説是ヘ

田九郎実称通高慶長三年上田ヘ移ル此ノ時ヨリ社領ヲ減ス

後ノ諏訪初リ経所ヲ田九代

小ノ字ニ答リ当ヲメタルナル一可ト

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

神代ヨリ仰有上古ヨリ頭相ノ分當社ヨリ嗚建立有之神子住所等記置
宮保ノ後ヨリ其後故障有之ニ付相頼ヨリ其節地頭宮
神ヲ小河ヨリ本田山ヘ奉勧ト中古ヨリ衰微ノ
一祝神社頭方宮ノ後ヨリ近年ニ至リ四社ノ
ヨリ建立ニ而頭方ヨリ社ヘ本像ヲ引移ス
本像ニ祝ヲ同ト申ス名有之
一御當家ヨリ相成ラル御守
若狭様御祈願ニ而御宮ヨリ
有之其外所々納物有之
一天明年中社頭類焼後再建ニ等ヲ
迄宮ヨリ御供米御拳御守納有之
一社頭神変有之祭先年ヨリ修行仕来
神主ヨリ後神輿年ニ八騎引修行仕来ト云文化千五宮年四
月神事相當ヨリ有之御武運長久ヨリ寶鏡御ヨリ改修行ヨリ村
山神事ヨリ変ヨリ頭社一統年中唯一ヨリ修行仕来候
一御供ヨリ神子屋敷地従古ヨリ相頼地ヨリ
一御先ヨリ様御祈願ヨリ節折ヨリ百出神代
頂戴ト

一苗字ヨリ変ヨリ御家行ヨリ被仰付候ニ而
右ヨリ通中ヨリ出系ヨリ変ヨリ先祖ヨリ御山和合院ヨリ
申上ヨリ通ヨリ
王依比賣命神社

寺像

小河原紀行

天照皇大神宮
玉依姫尊命神社　磯並三社大明神ト称ス
諸方大明神

當國一宮上諏訪本宮摂社ノ磯並大明神湖水ヲ通ジ渓座有テ
參神玉依姫命ト日本神系圖有テハ磯並天明神ノ則玉依姫命ト云

一地名宮地ノ社天明神ト唱ト

地名宮ト唱ヘ北名有テ行法ヲ大ス湖水ヲ渉テ通ヒ
山ヲ八場ト北名ノ社地山西ノ方宮場ト唱又皆神山西ノ方宮場ト
年ノ初世界ノコトヲ司ル祭ハ十月ヲ以テ祭ル又有テ磯並ノ神ヲ以テ
玉依姫命ヲ建御名方命ヲ祭ル今小社有テ別宮ト称ス

右湖水海行手地ノ磯ヲ渉テ
山ヲ八場ト北名ノ社地山西ノ方宮場ト唱又皆神山西ノ方宮場ト
年ノ初世界ノコトヲ司ル祭ハ十月ヲ以テ祭ル又有テ磯並ノ神ヲ以テ
玉依姫命ヲ建御名方命ヲ祭ル今小社有テ別宮ト称ス

右湖水海行手地ノ磯ヲ渉テ

作乃田六年ノ水ノ等ハ歳乃年ノ豊凶ヲ占フ事ト云

古額ヲ蔵ス（ママ）

ヲ大沼ト称ス次ノ字ヲ天正ト唱ヘ一国ヲ通ヒ
天正中ノ古高税法ナリ
場所ヲ二千石ノ字ヲ和成ト唱ヘ地ヲ田又ヲ田ヲ
ヲ渡ル故ニ号ヲ又地ヲ田ヲ
ヲ渡ル故ニ号ヲ又地ヲ田ヲ
ヲ渡ル故ニ号ヲ又地

一慶長二酉年當神山ヶ宮ヶ祠藏相傳ス

一日九年九月朔日吉田勘ヶ川中島四郎ヶ

一同十一年 松平信吉ヶ領ヨリ寺領ヲ

相附ラル建立者ヲ以テ當寺ヲ信吉ヶ

有ヶ子孫信吉ヶ

一同十八年 花吉ヶ相成ヶ子國生ヶ

一元和八年 一雲様上田藏ヨリ

ヶ為ヶ移轉ヶ

一日九年本殿御假殿拜建

一寛永年中 上様御代御假殿ヶ

叶ハ者ヶヶ

一同十五年御巡見御山ヶ

一享保十三年程經年破壞ヶ

一寶保三酉年滿水ヶ

一延享四年九月程傳仰渡ヶ

一明和元年九月拜傳仰渡ヶ

一同六年寺傳村枝ヶ

余ヶ

一文政四年天明五年拜殿修覆ヶ

改ヶ

小ハ宝永ノ天正年ノ文字有ヶ此字ヶ

下ノ宮ノ字慶長ヲ指ス

是年月未詳

古拜殿ノ事歟

一説ニ現在ノ拝殿ヲ指ス歟

是ハ九代ノ事

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

一 大蓮院様御霊屋ニ祢ニ歌仙一額御寄進
一 駒形明神社并神馬屋先年有之ニ中古破滅ニ付右駒形神ノ像当
社ニ納置ト但神像春日刀利侍作ト云
一 天満宮ノ社ト地山裏天神平ト先年ハ有之ニ等事寛政度ニ
御取払
一 社園天王御興蔵先年山ニ有之ニ右天王山ト唱ト
社園会ハ即右社園天王祭礼ニ当ル依古来像并尼巌定将軍ノ存生ニ
御霊舎ニテ其度法用ノ為祭時御借受ノ事
ニ候ヤ為御断ニ及ニテ
中ノ茂神明ニ鳥居等御建立ニ付
行テ其節ニ
河由ニ遠ク去ル
ニ付テ其節ニ
行ニ付
三嶋大明神像ニ
ニテ其儘ニ被置ハ
寛文ノ頃ニ
仲ノ茂ノ
尼巌将軍ノ
寛文ノ頃ニ
寛永ノ頃ニ
寛永ノ頃ニ
寛永

一大蓮院様御霊屋ニ祢ニ歌仙一額御寄
一駒形明神社并神馬屋先年有之ニ中古破滅ニ付右駒形神ノ像書有
社司、細雪下但神像春日刀利仏師作ト云
一天満宮ノ社ノ地山裏天神平、先年ハ有之家あり等中宮破損ニ付
細雪下

○一社園天王御霊蔵先年山ノ内ニ有之ニ付天王山ト唱ト

社園会雪ハ即
右社園天王警礼ニ依ハ往古寺像ニ付尼巌定将軍ノ存世ニ相談ノ
御霊舎ニテ
其度江田ノ内ニ新ニ建立ニ付ニ
祭時御神ニ
ニ象ヲ御移所
中ノ宮神ヲ引移翌年正月十日参詣ニ定
ニ於テ警衛
行テ其節更
壹貫刑屋無雪当祈念御行入
河曲ニ造ル
ニム言意ヲ
ニテ其節無
社化ノ下ニ
行ニ遠行ヲ
宮ノ里ニ
遠ニ
社園ハ雪ノ為ニ
ニ移ス

細雪ト唱ル十リ
国々郡郷ニ
祢ニ
国郡正祝社
ニテシタリ
神里ニテ
神遠トレ私ニ
社園会ヲ行
リルナリ遠ニ
東隆中堂西
像勢等
ニ御奥会一

駒形天明神像一躰　天照皇大神宮像二躰
戸隠山ノ九頭龍権現ノ神像一躰　春日明神像一躰
（但シ元ハ天狗ノ像ト云）
天満宮像　一躰　三宝荒神像一躰　高二石五計
一面

新山神主　土田常陸

高社ニ宮形社ヒモ名縁起ニ通
ニテモ此御
ニテ其筆跡ハ
国郡正祝社

離山神社諏訪大明神
草創ノ時代不分明御守護建立ト云
従武田信玄侯望見山ト唱ヒ拝ヒ御守其節
北越ノ戦ニ勝利有之祈禱ヲ修ヒ御守奉
元和三年信之公法入部以来従正月九日十五日迄望見祈禱毎年ヒ修ヒ御供料永ク文ノ寄附有之

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

有しに其条神
八無之候古ヨ
リ惣ヲ松枚
枚ニテ作リ候
何ニ流文例ス
古飛騨国ニ
山ニ白来鳥堅
ノ形ヲ作リ打
出シ一枚リ
玉依姫神社ニ
ニ祭リ奉ルニ
ハ天王ハ春ノ
宝正月文明之
中像ノ頃之寺尾
修理処之社ノ
政業指ヲ廃
ト云ヒ其後当
敷ト唱ヒ八幡宮ハ永年中迄右
ニ社頭大破ニ及ヒ因村杉葉東山ヨリ
八幡宮引移ニ候屋敷ハ因ヨリ
宮跡ヲ明神ハ幡宮両社ヲ引合
往古ハ中条宮ト申ス
一祖一束今参礼弁四記一巻
一飯徳大明神四記一巻
一山城豊久大日方直方ヨリ虫倉嶽御国来仕出ス豊久ヲ祓天
ニ祭ル事一巻

和睦相成其節年号文天ニ依神教誤方
引移勧請ハ慶長四年正月先祖
古勧請ハ東寺尾村中程西側ニ
敷ト唱ヒ八幡宮ハ永年中迄右
ニ社頭大破ニ及ヒ因村杉葉東山ヨリ
八幡宮引移ニ候屋敷ハ因ヨリ
宮跡ヲ明神ハ幡宮両社ヲ引合
往古ハ中条宮ト申ス
一祖一束今参礼弁四記一巻
一飯徳大明神四記一巻
一山城豊久大日方直方ヨリ虫倉嶽御国来仕出ス豊久ヲ祓天
ニ祭ル事一巻

有しに其条神
八無之候古ヨ
リ惣ヲ松枚
枚ニテ作リ候
何ニ流文例ス
古飛騨国ニ
山ニ白来鳥堅
ノ形ヲ作リ打
出シ一枚リ
玉依姫神社ニ
ニ祭リ奉ルニ
ハ天王ハ春ノ
宝正月文明之
中像ノ頃之寺尾
修理処之社ノ
政業指ヲ廃
ト云ヒ其後当
敷ト唱ヒ八幡宮ハ永年中迄右
ニ社頭大破ニ及ヒ因村杉葉東山ヨリ
八幡宮引移ニ候屋敷ハ因ヨリ
宮跡ヲ明神ハ幡宮両社ヲ引合
往古ハ中条宮ト申ス
一祖一束今参礼弁四記一巻
一飯徳大明神四記一巻
一山城豊久大日方直方ヨリ虫倉嶽御国来仕出ス豊久ヲ祓天
ニ祭ル事一巻

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

一出田之迫兼親法橋源光平信州川中島ニ流人ニ而参候ニ付
一寺尾傳右衛門娘子ニ而子細有之候ニ付
一當社神宝児玉石数十
一寛政四年職を行ひ候節中条柿右衛門
其節郡名社号ニ而郷中田畑故障等ニ而数通一冊
一古来之棟札ニ文字一冊
一中條宮向舘徳大明神 ニ而元祖戸隠山ニ而勧請成ニ
本宮事社宝書九年ニ而上候ニ付ニ而
唐ニ而年中 行之ニ而候ニ付
寛ニ而之ニ付

元禄書上ニ而ニ
宝ニ書上ニ
芦川村
舘徳大明神宮
社人 高岡五位

是ハ舘徳大明神
歟余祖先ノ
奉仕之ニ付ニ
其事書家
蔵ニ有之候
ハヽ不知
詳ニ

向山ニ而読ニ候ニ仰有其上右社所ニ而、寺僧村ニ而ニ
鎮座ニ候ニ付右大明神ニ而ニ候ニ付ニ而
右之通リ造立ニ付右ニ而村ニ而
年中社ニ而ニ
先ニ而ニ

元禄之上
一祖頭天明神宮号
宝ニ九年ニ
一天正十四年村松土佐守直則建立 安永年
一文 ニ
(四方ニ柔軟ニ
四方ニ社支配ニ)
一武田信玄侯北越ニ而ニ
侍ニ而ニ

栗根丹村神主
栗井神社
木村 日向

元禄
一社号両社共ニ云
一称号ハ神社ニ云
文庫等無之
甲寅四月之

我利五十八部札ヲ奉下付ヲ
劇屋甚部長谷部民部
諏訪上下大明神
草創ヲ不詳宝屋上野ヲ先ニ建立棟札左通
宝永九
一称号ハ神社ニ云
文庫等無之
明
文應三甲乙八月十六日 壬申日
諏方両社 宮主長谷部右馬五郎太夫重朝
大檀那神家前劇屋上野守光重建立右棟ヲ奉下付
文庫等無之
甲寅四月之
一文政三辰年二月十五日劇屋村金山ヨリ出火
柴村 諏訪神宮寺焼
梅札一枚有ヲ
星入寺院部 阿彌陀堂
人王八十五代後鳥羽院御宇建保年中ニ
下伯国会見郡佐原村信人吉次住人吉次
常陸国稲田道場ヨリ遣尋ヲ初折ニ致奥印
寅年二月聖人光福寺人宅ニ逗留ヲ
分仏ヲ善ニ名号ヲ新ニ系図ヲ名号ヲ
其後人王百四代後土御門院御宇吉次
義ヲ尚ヲ磯部ヲ勝願寺ヲ分寺ヲ
ヲ有ヲ退年ヲ分被ヲ
庵ヲ奉ヲ分ヲ
系ヲ右ヲ
程経ヲ分ヲ
右壹ヲ不思候ヲ
ル信ヲ信ヲ
```
```

来其子孫之世繼之孫孝申江戸表ニ罷在義ハ節右申当
ニ而子六月歟参府之道立ニ而ハ可参哉ニ存候
一右之子孫名字ハ勝之助幼名真菩薩薬師堂ニ而ハ三福と申
御上ニ而ハ表具ニ而ハ右ニ表具ニ而ハ其後宝ノ石年普請等終
御当家相続ニ而
一 別社ニ而ハ寛永年中矢張御屋敷ニ而
一 右信玄公ニ而ハ年代ハ不知
六角六年ニ而歟ト
由記天保未ニ而ハ弥陀堂ニ而ハ信玄ノ物品信玄ノ鐘五無以下記ノ宝
物ニ而ハ上ハ仏間御所ニ而ハ等ニ而ハ
狭ニ而ハ此ニ而ハ行ニ而ハ
後ニ而ハ行ニ而ハ
ニ而ハ

宝ノ九ニ
山王大権現宮
山王宮 元禄社領四石
高七ツ石

大宮諏訪大明神 高二石五斗
延慶以来ニ而ハ
流ニ而ハ

清水村邑ニ
安藤伊勢
元和三ノ丹波
元国大和

此故事ニ而ハ
御請等月日ハ
人ニ而ハ
ノ事社有ニ而ハ
ノ解

山王宮ニ而ハ
寛ノ候捨ニ来
ニ而ハ
ナ可ニ其ヨリ

右普通宮ニ而ハ
ノ天郷ニ而ハ
ト

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

唐崎ハ江洲坂本山王ニ近シ江島ハ相州ノ竹生島ニ仕ル由ヲ申ス故ニ依テ之ヲ略ス
ト歌ヲ而宮ト有ルヲ其ヲ唐崎明神ト江洲領神社事山王ニ委ク書ト雖モ
神事ヲ歌ニシ右事社等加有テハ山王宮ニ依ハ從坂本ト書ハ
為ト計事有ラン古実有ルヲ不取山王神ヲ多代神ヲ多ハ二十五ヶ社
先出ス
○横田村山王ハ寺保中立郎小ニ命造立ニ係ル（棟札同様）小三郎ハ余曾祖東其言ノ幼名
故ニ元禄書上ニモ多宝ノ書上ニ有リ山王ヲ社ヲ祭ル神事舞中後ニ
是條年歴一ハ再建ニ付テハ神事舞中後ニ
ニ合ハズ
人王七十代後冷泉院治宇村上帝御宇天文信安侯ニ
村上二帝安倍ハ
室後改ル人ニ
村上氏改姓ス
ル所ノ多立ノ再建ニ而右神号ヲ爰ニ當ヲ鎮ヲ御氏運ニ長久ヲ毫穀成就ニ
ハ此辺ヨリ和銅ニ
ナル八年ヲ経ヲ
ヨリ號ス和
ノ後ヨリ
生泉院ヨリ寺号ヲ
ヤ人ヨリ之号
ハ之和ニ而宮ト
ノ村ヲ
等ヲ多代ニ入ト雖モ其後所領ト不相ヲ事ヲ情ヲ野侯ヲ
與
ニ再建ニ付テハ細ヲ事ヲ其後天文年中武田信玄當
御領ニ入ル事甲斐ニ兵乱ヲ又ハ郷村ニ普ノ和天正年中生宣ヲ有領主雨宮播磨
ヲ多ヲ者ヲ支ヲ領ヲ方数ヲ有ヲ多ヲ多ヲ者ヲ神事
右ヲ御供料ノ外ヲ数ヲ松ヲ表ヲ下ノ寄附ヲ
元和四年酉月
神主宛名ヲ多ヲ
一元和八戌年當 御領ヲ縁法ノ節ヲ望ヲ之ヲ
但先規ヲ之ヲ山ヲ多ヲ多ヲ年ヲ数ヲ松ヲ表ヲ
社頭ヲ之ヲ清ヲ
元和九年
ヲ
ヲ
ヲ
右ヲ之ヲ御供料ヲ遣ヲ松ヲ之ヲ
ヲ
ヲ

一寛政二戌年神事之節　天面稜様御代参之
一先年神主ニ而勤来候処　戒法寺ニ而
永寛保二戌年海水之節宮屋失ニ付
ニ而勤来候処　今般
野殿ニ而勤ニ相成候ニ付
御役所へ御届申上候

一神主家之儀ニ付従古当社
元代慶神屋代堰水神
従古来之神事ニ付
水神と唱候事ニ付

元禄
山王大権現宮棟ニ
打付有之
宝ノ
山王宮
大塔権現
山王堂ニ住有ル

須々岐神社
山王宮

元代
年月ニ付不詳
竹田
申勤

元禄
山城

十八ヶ村組合ニ而

一神事ニ付従古来例御行之節
下座ニ而勤来候処
御供新御行ニ付
一神主家ニ竹田宮ニ深
一武田信玄屋代山城
殿ニ而行云々

屋代神主竹田山城
信玄武田ニ訴訟
屋代ニ住ス

元禄
宝ノ
諏訪明神

当社神社ニ付
大明神

元禄
近年式社ニ
而来候
社
東西三十間
南北三十間
高一石九斗
八畝二十歩

義諸家ニ而勤来候ニ付
松山藩当社式大宮ニ而

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

明和ト改ム　旦ハ称不拘風下村神明宮　諏訪明神　大角豆村王子権現社　小
鍋田屋村ニ高明神　宮前村王子権現社　赤澤村諏訪明神　飯能
権現明神　横堂村諏訪明神　右ハ皆ニ産神ト文往古ヨリ
鎮座ノ社ト云フ

一　社ニ文先祖宮内大炊介常光迄十六代住居ス其間年号ヲ
元禄ノ頃ヨリ無年号紀元ヲ
以テ記ス

一　今地甲雅神社　往古ハ諏訪宇留野大明神ト称ス
流宮ノ
宝ト
無高年代
文書有之
文書ノ義ニ
付テハ
ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

一　氣吹雄大明神　往古ハ諏訪大明神ト称ス
流宮ノ
宝ト
無高年代
文書有之
文書ノ義ニ
付テハ
ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

一　新郭名主鈴木

村上居國ノ　清和源氏寄合四郎信次五代左馬介政信在京鳥羽殿
年号ヲ以テ記ス
迄其子宝治
太平頃信女
子孫ニ而時宜ニ付上京国ニ住居不見

左馬介義信ト称ス　文安六年薨ス　墓所
元禄ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

一　寄義氣村ニ文清信ニ至ル迄代々新郭ニ住居ス
元禄ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

六人ニ至ル迄代々　但　南像寺ニ寄氣高ト共ニ
九月雨宮合戦ニ而討死ス　右壹社　試問
元禄ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

中村神社　○右建乱ニ大国神社ト称ス

宝ト
神号ハ大神
宇社ニ至ル
迄ハ
ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

諏訪大明神宮　元禄ノ頃ヨリ紀元ヲ以テ記ス

宝ト
中村神社ハ大明神
ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

今新井神社

宝ト
鷲ノ社号ハ
ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

今新井神社　元禄ノ頃ヨリ紀元ヲ以テ記ス

宝ト一宮ハ宮号ハ
ノ頃ヨリ
紀元ヲ
以テ記ス

壹甘　塔ノ岩　大隅

壹甘　塔ノ岩　大隅

壹甘　塔ノ岩　大隅

更級郡

隋氣神社諏訪大明神　高萬石

社内　東西三十三間三尺　南北百三十三間

一　先祖布施城主布施冠者則頼侯ノ臣泉ノ有之

一　慶安年中稲荷山宿ヨリ吉田嶽止宮ヲ勧請ス其後寛政元酉年ニ神子ヲ差置諏訪大明神

先祖往古ヨリ其後寛政元酉年ニ神子ヲ差置諏訪大明神

文化十三年子年仮令仕ノ分ノ日元年ヨリ神子ヲ差置諏訪大明神

先祖往古ヨリ其後寛政元酉年ニ神子ヲ差置諏訪大明神

飛神明宮

飛ハ富部ノ訛歟富部後厨ヲ

富部神社

西寺尾村神主　五明宮内

西寺尾村神主　富部三右衛門

諏訪大明神宮

元禄宝ノ社宮ニ入字宮

兼治君真筆ノ棄書海ト共ニ

非施村神主　小出權頭

藏王権現

藏王権現ハ大宮ノ分

清水神社藏王權現

寛政年中勝手ヲ以仮令仕ノ分ノ日元年ヨリ神子ヲ差置諏訪大明神

牧嶋村神主　和田大学

真嶋村神主　吉田修理亮

西寺尾村神主　富部三右衛門

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

人皇八代ニ天照皇大神勧請ス　御討入行軌神欽ノ名下リ神宮ニ先テ神欽アルニカラス三月誤ナリ

先年ノ社地拾町西面大門幅拾二間長壱町山迫一ノ鳥居有リ宮前二ノ鳥居十二丁向ノ東福寺村ノ東鳥居久保三ノ鳥居有リ寺号書ス　築場

十一ノ村近村ニ而廿七社有リ和川中島合戦ニ兵火ニ焼失　○保科御厨神明社代ニ八町ト云又仁科宮ニ勧請スル故宮ノ大ナルニ似タリ

一天文十二年五月神主代替ル近衛千ノ村ノ末ニ而神明宮勧請ト云ヲ以テ遠ニ有ル而已ニ有テ　○村岡廿八古此宮ノ神ニテノ位ノ名ナル而已ニ仍リ宮号ナキ不知在リ

諏方大明神　高壱石鳥兵ニ諏訪ニ而ハ宮ト号ス

一大幟（川中島合戦ニ用ル）　一流　一倭錦旗代衣（口訳）　七ツ

一矢筒ニ有リ、一　右寺宝納ル

一刀二振（白鞘一振朝府一振）

一行ノ手金一

一幕　後府法号一張　右ハ正徳六申年八幡村神ヲ行列ニ郡ノ社家着等ノ為ニ而ニ張ト通ノ府有リ元祖ノ為ニ出ル而已ニ有ル而已ニ上ニ幕ト通ノ義ニ而ニ張ト云ル後ニ義ノ状ニ先出ル而已ニ有ル

一先祖ハ小口兵部ト云ル川中島合戦ニ而ニ討死ス右ノ由ニ有リ

一元和六年ニ駿府ニ而ニ家康公ノ御前ニ而ニ諏訪大明神ヲ平川宮ト号ス

元和六年ニ駿府ニ而ニ家康公ノ御前ニ而ニ諏訪大明神ヲ平川宮ト号ス　高壱石

勅諚ニ而ニ月日ハ不知

小野澤神明宮　高壱石

人皇六十代村上天皇御宇天徳年中村上具平親王信濃国ニ流下向馬被ル

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

村上氏ノ村上源氏ト思ヒシ説ヲ
一宝賀崎ヲ我小郎署ト御住居ノ地名ト又小郎署明神ト唱ヒ由申伝ト
一駅路鈴　一　天徳年中勅使前ニ置ク字ト
一鏡　一面　日本中古ノ宝物ト称ス不知
一田玉　二　管玉二　雷斧
　　元ハ
　右ノ外宝ト申伝ト
　諏訪大明神　高サ一尺
　　石像ノ立ノ形ノ如シ
元
スハ大明神　宮ニアリ
上下スハ明神宮ニ社
清水神社諏訪大明神ト云ヒ石
　　刀石村神ヲ
　勧請ハ近歟年中田村将軍東夷ノ征伐ノ節信濃ノ
　住吉ノ霊ヲ祈リ給ヒシ故ニ此地ニ遷ス
一宝物左刀　一振　村上義清侯ノ寄附
　　一面　笑ヒ
　　元ハ宝ノ字ナシ
　　吉田井波神ヲ
　　小宮山民部
　　元ハ和
　　宝右和

一種子宗源宣旨　一箱　一勅書　一巻
　右宝政年中藤堂家領分ノ節ノ写ト
一境内鳥居額石高六尺　社号ハ
　　元
　　宮ノ字ナシ
　右ノ通四記ノ宝永年中流失
　神明宮　　元
　諏訪大明神　宮ト称ス
　　元
　　宮ノ字ナシ
　諏訪大明神　元
　　宮ノ字ナシ
　右畑社什古ノ勧請ト四ヶ所社共ニ領内ノ
　諏訪大明神　ト云ヒ名
　　陰宅中牧村ト唱ヒ
　　元
　　明神宮ト称ス
　　スハ大明神ノ社
　中牧村神主　小口贊岐
　　元
　　宮ノ字ナシ
　　元ハ向伊
　田牧口村卯ト
　　元
　　宮ノ字ナシ
　　元ハ川
　宮下雲治
　　元ハ和
　　宮ノ字ナシ
　山王村神ヲ宮下肥前
　　元
　　大山祇神宮ト云ヒ
　　諏訪ノ明神ノ宮
　清水神社諏訪大明神　ト云ヒ石
　　元
　　諏訪ノ明神ノ宮
　　元ハ
　　宮ノ字ナシ
　　元ハ
　　諏訪ノ明神ノ宮ト云ヒ

滋野性手林左内屋敷ニ在城之節鎮守ト申伝ル

元 城内一百社大明神 宝ノ内 社領ノ内ニ而ハ宝ノ内ニ而ハ無之

波閇科神社百社大明神 高三石三斗

天児屋命ヨリ祖神人皇十二代景行天皇御宇日本武尊東夷御征伐之節當国御巡行之節御滞留正喜式内當郡十一座之内

一石積二ヶ所 日本武尊旧跡ニ御勅表之御歌有之故申傳

一百社大明神額一面 往古ハ有之節ハ不知

一社号宗源宣旨一箱 一波閇科神社額一面 古物 一幕幣一箱

一陰陽神宝石 二 一神鏡三面 一宝鏡一面 一宝剣一振

右之四ヶ所之宝物等申伝ニ而ハ無之

泉水口諏訪大明神 之名弁者

御機神佛之 宝ノ内 元因幡守 宝ノ内ニ後

上ノ件百社大明神之

上山田村 元ハ法 宝ノ内ニ後 若林相模

平林屋敷ニ而往昔ハ寺正家ト平村上屋敷ト住ス永禄九十月松嶋ニ移住

大同三戊子年七月廿五日勅請 人皇五十二代村上天皇第四皇子尊平親王

御再建ト申伝 元村上氏ノ守子孫ニ而有之ヨリ作リ名ヲ改ル 宝ノ内ニ後

一神職之儀天村上家奇法之名字系数通有之

一寺子親王御額一面 一村上義清候御名一通 一日蓮一面

一歌一巻 村上家之額当寺為宝物

一右之宝物之額当寺為守

是願書信而者物不足取者也

願書之趣奉 神前無油断可令禱修者也仍而如件

右之通永禄九年 丙寅 天文七年 戊戌

泉口 天祝

高野山清浄心院

左衛門尉 義清

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

敬白願書

當社泉口正一位諏方大明神者當姓之爲尊神其志趣者當家
始祖村上天皇皇子一品親王盛清卿天徳四年庚申初冬信州
更科郡府有下着蒙勅許立姓信列更科之村上源氏爲初祖從
一品親王以来當姓之与尊信當社大明神奉尊信誠大明神威
應深厚難勝計故家門繁榮遠日重月隆矧無双家是偏大明神
之所依御加護也然而去丁酉年中ヨリ北越長尾平爲景常領
水内高井兩郡仁令出馬難令敵義清家臣平林栗田堂敦貞敢軍
爲其恥雪今年水内表於稲付原有無勝負ヲ請次事至其期ニ義
清令出馬可防戦仰願大明神被加神力北敵爲景討亡ニ義清得
勝利帰館揚大平樂悦聲令得安寧給者社頭爲修補當成ヨリ辰年
迫永銭万匹可奉獻納者也仍而願文如件

天文七年戊戌三月七日

泉口諏訪大明神神前

村上左少将
源義清 判

[下]

定

泉口大明神社領事
記法令之通ニ永可令領知者也仍定書如件

天文元年十二月 日

[illegible]

神主 高井郡

佐良志奈神社八幡宮

明細帳 當八幡寺ヲ守ル寺僧ト在ロ八王子権現宮ヲ別当ト称ス 小川ノ村

諏訪大明神 元諏方大明神ト号ス 宮守稲荷ヲ祀ル 小松ノ村

神明宮 元祠ヲ置シ寺ヲ社僧ヲ守リ其地

諏方大明神宮 元祠 大明神宮 寺下宮 寺上宮

諏方大明神宮 元 大明神ト称ス 三人宮宮脇ニ鹿谷村

諏方大明神宮 元 寺ノ東

仝 和田ノ頃村

仝 寺田村

仝 元 大和

諏方大明神宮ヲ社 三水ノ今泉村

神明宮 山布施村

諏訪奥明神宮 元 寺ノ東南 今ノ村

諏方両社大明神ヲ社 元スハ宮ヲ此ニ移ス 蘇牧村

高井郡

諏方大明神 元ヨリ宮ノ鎮座ニ係ル

保科弾正忠正直侯ノ領ノ時ヨリ天文ホ 往古保科弾正忠正直侯ノ領ノ時ヨリ天文ホ

不慮ノ長七年ノ冬自焼失其後宝永ノ人ヨリ而 不慮ノ長七年ノ冬自焼失其後宝永ノ人ヨリ而

信濃ノ国ニ社地ヲ賜フ子孫社領永百石ヲ文ホ 信濃ノ国ニ社地ヲ賜フ子孫社領永百石ヲ文ホ

御当家ニ仕ヘ 御当家ニ仕ヘ

ヨリ年ノ春ニ至ル ヨリ年ノ春ニ至ル

保科弾正忠正直侯ノ領ノ時ヨリ天文ホ

一 保科弾正忠正直侯ヨリ心願保科村ヨリ上ヶ領方ヲ表ニ建御名方命下之諏訪ヲ奥ニし事代主命ヲ祭其外四村ヨリ四十八社勧請有テ守護ニ作有テ今修復不村ヲ〻不構守護ス

一 天満宮

人皇六十二代村上天皇御宇天徳四庚申年九月十五日従京都勧請建久六乙卯年井上城主井上九郎源満基社地四丁四方寄附有之建立是ヲ秋宮ト唱

一 建久八己年頼朝公御参詣被遊之

満親ハ頼朝卿ヨリ時ヲ賜ヒ姓ニ一字ヲ賜ヒ名十七ヶ条ヲ天和ノ像ヲ頼田左エ門ノ事天正十二年上条治ヲ鞆義春ト計し福当家祇ヲ北越軍記ニ詳ナリ

文ノ字ヲ用ヒ

ヨリ

一 源頼朝公ヲ感状並梅木宮隆ヲ幡ヲ細有ヲ事中古ヨリ伝ヲ

一 神職ハ孝元天皇布留宿祢梓来領ヲ回姓天正立次国和人今七世孫栗

事命市川朝臣大鶴鶴天王ヲ市世連倭賀布都怒斯神社於石上御布留

天徳ヨリ整 村高庭地以市川臣宿神王本朝二十二座之内大和国山辺郡石上布留神主市川秋母ノ俗称ヲ云三男天徳年中罷越夫ヲ引続テ相続ス

宇時世ヲ誤説ナリ

一 飯縄大明神 ヨリ伝ヲ

場内中金宮ヲ村神主 山本帝陸 元禄ヨリ安代和泉宝ノ文ハ山寺和泉

寛文ヨリ古ヲ古ヲ後古代ヨリ実ヲ

一 延宝中 一当様御建立同八申年従 一当様柿原御供ヘ、日ノ宮所ヨリ下当ヲ八神ヲ名新屋川ヨリ村ト此御感状並吉田家状ヲ通有ヲ先ヲ和流ヲ

諏方大明神 仁大行現 宝文ヨリ古ヲ仁ノ名仙人形紀宝ヲ古ヲ八石 山岸信勇 山ノ字ヲ岸ニ仕信ヲ 宝ヲ仕ヲ

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

一 保科弾正忠正直侯ヨリ心願保科村ヲ以上ヲ領方ヲ表シ建御名方命下之諏訪ヲ模シ事代主命ヲ祭其外四村ヲ以四十八社勧請有テ守護ニ作有於テ今修復不村ヲ不怠守護ス

日上天照大神宮

天満宮

人皇六十二代村上天皇御宇天徳四庚申年九月廿五日従京都勧請建久六乙卯年井上城主井上九郎源満基社地四丁四方寄附有之建立是ヲ秋宮ト唱

福島村 祢ヲ 市川大和

一建久八己年頼朝公御参詣ニ依テ弥ヲ尊敬ス

一天文九子年疫病流行ヲ井上ニ於テ太刀ヲ納

一同十二年丑武田信玄ヲ頼朝公ヲ模シ太刀ヲ納

一天正十年壬午十二月廿五日福島城主須田左エ門尉源満親侯ヲ永十貫文ノ寄附有之ニ依テ御名ヲ改テ

一源頼朝公ヲ感状並梅木宮隆ヲ幡ヲ寄附有之ニ依テ

一神職ハ孝元天皇第四皇子彦太忍信命ヲ祖トス

事命市川朝臣大鶴鷦鷯天王ヲ始世々連綿賀布都怒斯神社於石上御布留

天徳ノ時ニ村高定地以市川臣宿禰ノ俗称ヲ与ヘ三男天徳年中罷越夫ヨリ代々相続スル

宇賀御霊ヲ勧請ス

飯縄大明神

金剛中 金剛寺村神主 山本帯刀陸

元禄ヨリ安代和泉

室ノ木山寺和泉

一諏方大明神

仁大行縢

元禄ヨリ安代和泉

室ノ木山寺和泉

一源頼朝公ヲ感状並梅木宮隆ヲ幡ヲ寄附有之ニ依テ

一神職ハ孝元天皇第四皇子彦太忍信命ヲ祖トス

事命市川朝臣大鶴鷦鷯天王ヲ始世々連綿賀布都怒斯神社於石上御布留

天徳ノ時ニ村高定地以市川臣宿禰ノ俗称ヲ与ヘ三男天徳年中罷越夫ヨリ代々相続スル

宇賀御霊ヲ勧請ス

飯縄大明神

金剛中 金剛寺村神主 山本帯刀陸

元禄ヨリ安代和泉

室ノ木山寺和泉

一諏方大明神

仁大行縢

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

日本武尊東國巡行御仙台山岩屋ニ御座シ給ヒ御像ヲ造リ健速ヲ
○生子神社 祭方大明神 元修理ス社祠ヲ山岸修理
往古素盞嗚尊御亂大ニ貴命御子健南方刀美命ト申奉社
祭方二代目ニ御座ス
神明宮 元寺社奉行ヲ
是宮保和尚ヲ模擬ハ古昔神宮ノ称リ
祭方大明神ニ
仝 元寺社奉行ヲ

大宮寺 田中津守 元市正称ス
佐野村 山本城 元校
川田村 勇ノ本 山城

水内郡

○山王大權現 元山王宮ヲ 除地三石
元和二辰年大久保左衛門佐代ニ成
○諏方大明神 元ヲ祭ル 除地ナシ
○小川神社 元諏方下宮 今諏方ヲ祭ル
往古ヨリ鎮座ニ和尚ヲ元先年古山村ニ
有之城主大久保左衛門佐ヲ以テ今ノ地ニ
第一ノ社 神體一面有
○上下諏方大明神二社 元森社祭ヲ 三五石
天文二巳年八月春日信濃守尊印行朱印ヲ
以テ毎年春秋祭礼並

宝ノ
往古ヨリ鎮座ノ神ニ
祭礼ハ秋ニ執行
諏方ヲ祭ル神ニ
仝 元ハ諏方下宮ヲ今ハ諏方ヲ祭ル
中條村神主 宮下駿河

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

[illegible]

諏訪大明神
金屋山伯耆

[illegible]

一慶長年中三間四方ノ宮拵ル
[illegible]
日吉作ノ神体

慶長八年申卯月十日

打箕鍬合

南城村大明神御宮ヲ白如ク年貢地方ニ而
[illegible]
[illegible]

北條村大明神ヲ[illegible]
[illegible]

[illegible]
神体御請社八幡宮

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

すまうの神ぢんあり。

「ぢ」の合ふ名余まゝ伝ふる俗なるべし

なめ体

但南面なめいるてゝ

寛永十六年ノ

十月十六日

清の後

一、字竹村の神の社屋ふるく

ふたゝび修造の願ひ

二度(三)

成工すべきなり。

南与神社諏方大明神 元天文年号

ふるき名

ふる山村神主

今井越前(元宝永)

往古上祖山村城主草羽内膳等中ごろ頼朝

一石勧奉ル一振 一石宝殿ト申名石

寄社 兼平天神宮 ほこ勧等像

○諏方大明神 元天文年 宝社

菟倩年月未詳 元和年楚

矢其後百余年中興再修所

○諏方大明神 除地一石

加茂大神 〃 一石

八幡宮 元亀元年 〃 四畝歩

右往古勧奉ル所社領也

守田八幡宮 元大宝年 宝神勧奉証社

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

武部ノ御名代ノ通次

小祠等ヲ所在ノ儘ニ置キ候義ハ、左ノ四社ニ
竹ヶ
八幡宮　元長六尺横三尺　高三十二石
明暦三丙年ノ造　御上洛御祈禱ニ仰付ラレ執行仕ル事年ニ九月ヨリ
執行　ヲ以テ
武雲能神社諏方大明神　元諏方南神宮大人仲四方　竹ヶ宮
荒神等月不分明ノ年天明年中ヨリ幣帛ヲ献ジ候
一太刀　長二尺三寸　一腰　馬場美濃守
宮
八幡宮　元社ノ字ヲ中ニ
諏方大明神　元宮ノ
三ノ字ヲ
諏方大明神　元社ノ字ヲ
宮
諏方大明神　元宮ノ
荒神等
諏方大明神　元宮ノ
荒神等
諏方大明神　元宮ノ
荒神等

日置神社　　除地五斗

諏方明神　元祢宜ヲ兼ル村人右ニ同ジ　宮戸ニ社

一額字神祇官ト部朝臣兼雄書

白髭大明神　元・六尺六尺

右御祭ヲ先ヲ供ス事

皇足穂吉田大神宮　元大神宮ヲ宗神社ヲ

一額字　勅撰神名歴物　右ニ同ジ

妻科神社　元諸国ニ多和神社有ヲ多和ヲ高或ハ

釜神　建御名方命

八坂刀売命　相殿

貞観二年二月信濃國素科ノ地神ニ授従五位下同五年書科神ニ授従五位上

右ノ如ク数次ノ先年焼失ノ事ニ付ヲ一切ヲ

大宮神ヲ　元人不在　宮ヲ吉田紀伊

日影村神ヲ　元祢宜依白又偽和　宮ヲ塚田備後

押鐘村神ヲ　元社人不在　宮ヲ原近江

書科村神ヲ　元ヲ人不在　宮ヲ斎藤下総

頼光　頼信　頼義

義家　義綱　頼治

○笠懸大明神ヲ祭ル

住信濃国

○若刀加田森寿田ノ森宮氏神ヲ祭ル

福頼隆ヲ祭ル

撃時ニ先ヲ帰ル中

ノ人トスレハ故ニ

世代脱漏ヲ

一ニ又ヲ為ス一

十九代廿代ヲ多

一仮タリ之ヲ磨

誤ニ可ラ

西条郷神社　元祢宜ヲ兼ル村人右ニ同ジ　宮ヲ北上野村

源頼光世孫信濃東條城主　若槻信宣頼隆頼重ヲ祭ル　若槻馬之助繁晴

繁晴父死後数代岡崎藩ニ仕ヘ元亀二年當国ニ来リ数世ヲ経テ

田ノ神社ヲ西ノ澤ヲ限リ南ハ沼辺ヲ東ハ青柳辺ヲ西ハ

慶長六年ヲ

天保六年森右近殿ヨリ修理ヲ加ヘ

當古岩井陸奥先祖頼隆ヲ十九世ニ相成ル

一ヲ保享申年祖ヲ家系、鬼形記録ヲ

十九代廿代ヲ多

一仮タリ之ヲ磨

宮前神社諏方大明神　元ヲ人不在ヲ家　宮ヲ高宮

社地ヲ修理ヲ代ヲ

神明宮　元明神ヲ　宮ヲ

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

神体宝鏡ノ裏ニ左ノ通有ル

信濃更科郡

神明宮　三之宮親王　右同

大同三年

神部神社諏方大明神

一宝亀元年八月廿五日従五位下

一文化十一年戌十月塩入橋普請ノ節

一寛永三寅年従正月年始獨作礼仰免

一文化十四丑年三月十日鏡　御免

右ノ外記録無之候間先規ノ通可仰付哉

高畏

天満宮

但猥ニ候ハヽ先規ノ通仰付

八幡宮

右社地ノ儀ハ御寺ニ而御建立被遊候ニ付

紫宸殿ト唱神

一大刀一振　右ハ多賀ニ而奉受候ニ付

虫倉山嶽大明神

宮殿建立之年月不知ト大同之年宮殿御建立成下置候ニ

寛永年中ニ奉公御代参有之候ニ付御神前ニ

八幡宮

右社地ノ儀ハ御寺ニ而御建立被遊候ニ付

紫宸殿ト唱神

一大刀一振　右ハ多賀ニ而奉受候ニ付

虫倉山嶽大明神

宮殿建立之年月不知ト大同之年宮殿御建立成下置候ニ

寛永年中ニ奉公御代参有之候ニ付御神前ニ

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

○天滿宮　元禄 天神ヲ天ト書ス　寛ノ 天御宮ヲ天ト書ス

棟札寫　表之方

日本義尚將軍之御世文明七乙未年
二月大内左京形夫義俊從筑紫大内
里當國水内郡當鄉来而發心願
建立再此之神社專祈　天下清
平國土豊饒之基者也
奉勸請天滿自在天神宮
應長七丁寅年三月大内左近義之
及神宮零廢依再此建同三月廿五日
遷宮者也　大内左近義之敬白

日裏之方

今年寛永十八年辛巳初春雪雪大
風雨吹折神木此時神宮共吹倒
矣故奉
神躰於再刻并神宮建立者也
寛永十八辛巳年三月廿五日
大内太兵衛義照　使先前棟札寫書敬白

○誦誠大明神　元ノ上ニ天ノ字ヲ下ニ木内村ヲ加フ
○諏方宮　元ノ上ニ宮ノ字ヲ下ニ村ヲ加フ
○立宮　元ノ諏方宮ヲ立宮ニ改メ下ニ村ヲ加フ
○三嶋大明神

鹽入内膳　元ノ鹽ノ字ノ角ヲ缺ク
近藤出雲　元ノ出ノ字ヲ缺ク
九山加賀　元ノ山ノ字ヲ缺ク
杉下勘解由　元ノ勘ノ字ヲ缺ク

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

稲荷大明神
金毘羅大明神
諏方大明神
天神宮
諏方大明神
諏方大明神

廣澤村　金澤大隅
小松山村　南佐井後
仝　小林和作
仝　石山近
下福山村　佐々木作左エ門
中野刈村　中澤寺鈴
小澤村　安藤志摩
竹之内村　座光寺小作
北鄕村　齋藤與馬
戸田石見

修験　道科郡

皆神山　和合院

天正十年卯月二日森氏禁制以下拾通文書写別本社今略之

一先年本山當山修験社家当寺行所まての義許之砌雖　棟札無　作医師廟雖有之代々無文先出之事候

新小岩井村　岡明院

従古至中町之内小岩井村住居之家元禄年中御免札有之寺ニ代地之事引移ニ

鞍掛天像　一幅　座像

覚性院様御筆之由

右ゟ記録ホ有永年中焼失

鏡屋町　紅梅山　梅壽時院

觀世音菩薩

人皇八十二代後鳥羽院御宇當国高安郡之住人井上三郎滿實ト云フ作而於安遊嶺當国ニ下向ノ後於安遊嶺ニ草庵ヲ結ヒ菩薩ヲ安置シ奉リ朝夕勤行基菩薩ト云フ建久年寅八月佛殿建立皆神山林麓ニ本堂七間四面ニ庫裡九間六間仁王門其外諸堂追々建立有之境内東西二町南北三町大門長サ北ノ方ニ峠往来迫リトヲ失リ追々當寺衰微ス

森様ヘ慶長六七年ノ事ヨリ

十九ヶ年森右近太夫殿ノ代ニ諸堂悉ク焼失ス

慶長九年松平上総介忠輝卿ノ命ニ依テ再建被成下ト云共後ニ又火災ニ

宝物其外諸堂ホ焼失當寺ニ所有ノ

梅壽観音像　一軀

獨鈷石　トツコノ形ノ如キ石

右ノ通當寺ニ所有ノ

中町　水龍山　安樂寺

従先年當寺ニ所有ノ年ヲ正月二日ノ

寅ノ歳ニ新ニ本尊當寺中ニ札ヲ安置ス

荒神堂　除地　六間三尺　寺

二十間　五尺　畑四十八坪

荒神町

往古清次町ニ堂有之ニ依テ武田家ノ時ニ

滝城ノ守護ノ為ニ此地ニ移ス

滝城ノ守護ノ為ニ此地ニ移ス

古今集序　弥安遊前ニ　一幅

當寺ノ宝ノ金作

観世音菩薩像　一軀

右ノ通當寺ニ所有ノ

真福寺

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

下ゟて当社山麓大日堂ゟ引越ス作候ニ付テ
御入部後壱町余ノ東下ノ堂
（芳賀村）
薬師如来　除地ニ百五十坪　項戴

一往古ハ無部牛王権現ノ本地ニ而御和額拾五枚ニて
ケ年ニ業ヲ修候ニ付テ　仰ゟ業ヲ以テ
竹山司ノ町　勧徳山　正福寺
先祖ハ小山文助ト申ス　昌幸公御代上州沼田海老ヶ淵ニ而忍ノ術ヲ以テ
州根来山ニ無部山ニて秘法ヲ以テ修行上ル　御在城ニ而大日ノ像ヲ彫
拝領被仰付ル右ノ額ノ像ヲ本引山天狗堂ニ
墨ヲ以テ右ノ裏ニ布下村ニ住居之和年中　御当城　御入部ノ節　信之公

御寺ニ而上ル名行ニ而石頂戴仕ル無ニ当神山ニ
上ル当神山ト号ス第一御建立ニ而当神山地蔵信仰ニ而家縁ニ
覚ト改ル右ノ額ニ法敏法印修験ニ而ニ成ル
ト号ス　第二ノ堂ニ而ニ成ル　勧徳山ト号ス一乗院ニ而ニ唱来ル

一第四番ノ法印ニ而ニ成ル先年ハ釘貫御書所ニ而ニ夜ニ入
御免ニ而ニ成ル紙ニ而ニ来ル事ニ而ニ御申上ル

新宮ニ

従前代清山領法印道橋方ノ役所地内稲荷明神ニ別当ニ而仰付ル例年
初午当日ニ而ニ役所ニ而ニ文政二卯年御祭ニ再建ニ而ニ業ニ御祭毎ニ木札ニ而ニ献上ニ而ニ旬
式日ニ而ニ御祭礼ニ而ニ神楽ニ而ニ御祭ニ而ニ仰付ニ而ニ行仕候

正覚院

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

荒町

去ル天正十年ニ危難尚今度ニ急戦ニ彼此両様ニ働ニ付而
殊利ニ当助地拾石宛ニ御朱印
慶長十七子年ニ信之御代ニ
聖護院宮光淳親王御筆
御短冊掛物 一幅
右往先紀伝事実ニ候
新馬喰町 聖護院 明王院

泉番寺

弘紙
聖護院宮光淳親王 御筆 掛物 一幅 紙不明 印

大日遍照王如来 行基菩薩彫刻

右ハ往古下野國宇都宮岡本甲斐守ヶ當國水内郡伊折村行海ヶ申行人
ニ請寛永十四年ヶ同村ニ安置ニ寛文六年ニ右弟子善光寺ニ譲其
後廣田村住居心海行人ニ請延宝四辰年八月當所ニ移候
一 世代右心海ヨリ當年迄九世
一 境内外ニ地ニ而拾弐間四方ニ所除地ニ代ニ所務ニ無之文政元寅
年新道ニ而壱畝ニ歩ニ付金百疋ニ而買上ニ候事

新馬喰町 立善院

大日如来 行基菩薩作

弘法大師一切経ニ而
東筑摩郡村大 聖護院

往古ヶ奉書後陽和院御判ニ而
聖護院御門跡ヶ当寺ニ御像御写被

寺号 泉涌院

一 宝永年中諸堂建立之節御修復相願申候日像目
頂戴之旨申渡之事

清助村

右村永帳 壹代 八間
八間 弐畝四歩 金剛院

一 宝永年中諸堂建立之節御用木弐本頂戴
一 右建立之節御領内勧化 御免之旨申渡
覚

一 当和山釈迦院寂下 塔料郡清助村今剛院諸堂
大破建立為勧化志之分 村方御免之旨申渡

肉桂指免之事

改金剛院弟子玄人自通二巡行差免之旨申渡
為メ之事

一 右之通相違無之候 以上

村 野業 印
当宿山 村
正義 寺

明和年中従 天奥院様御時々 御修復并御寄附
一 左之通年号通所書 此文字修復之称ん為め

此度 御屋敷之儀浮利之事ニ候 依之
和尚之願并ニ拾之事ニ而 代司抽

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

國通

幸弘云海等

淨土宗書目

右横物一枚

右之通相違無之候

一通

先年之役村、天台宗ニ而本堂天日坊ニ所持仕候、付右之書物天日坊ニ預ケ置候ニ付、大日堂仮宝院ヨリ義根本額ニ書物共ニ引移申度旨申候ニ付、右之書物共ニ仮宝院ヨリ受取申一通ニ而

幸豊

右之通相違無之候

一通

先年之役村、天台宗ニ而本堂天日坊ニ所持仕候、付右之書物天日坊ニ預ケ置候ニ付、大日堂仮宝院ヨリ義根本額ニ書物共ニ引移申度旨申候ニ付、右之書物共ニ仮宝院ヨリ受取申一通ニ而

幸弘云海等

風吟飛乱一図面

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

地福院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

伐宝院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

下田野口村

常宝院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

菩提寺村

浄土宗

学院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

霊山

寺院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

大光寺村

大光院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

下北浦村

天玉寺

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

彩明山

蔵寺

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

船越村

真光寺

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

相田之村

勝楽院

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

高宮村

権現

幸豊

右之通相違無之候

一幅

幸豊云海等

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

一 寛和八辰歳武州松城之大井右馬頭信継公ゟ御建立之御寺ニ而
一 御位牌ハ先年焼失ゟ當寺ニ宝暦之度ニ

諏方大明神　除地武石
再建棟札文

惟當大歲次之其日月並十月二日敬三而八十余
ケ月當日神月神支干唯今命
七難即滅　南膽浮洲信州高井郡佐野村
給諏方大明神御座爲祝衆生故現無量神力
諸佛救世　者住於大神通廣前而
御還宮會儀御事就之種々奉物奉和
光室位納受之唉含哀感垂給怒早天長
七福即生　地久御領内滿珠心信施主小島内膳源
昌吉中友災難万里佛福壽自在再拜

右裏文
大工七人　名不記
社取之　名不分
天正二十年壬辰季今月吉日奥映敬白
社守　無官山　近命寺

助力　施主　寿蔵
功徳　次兵衛

改元文禄之後、

湯田村産神
諏方大明神　除地壱石
佐野村　近命院

一於湯田中村鎮守社領除地

右當社之儀古来之通ニ
御年貢諸役等免許之上
ニ而御座候

寛文十年庚戌
當社
富士浅間大権現　除地壱石之内

佐野村産神
若宮權現大權現
先年奉遷　神慮定而御満足ニ
可被為在候哉　御免許之上
ニ而御座候

寛文十年庚戌
當社
富士浅間大権現　除地壱石之内

町川田村　長覚寺

小河内村　光永山　源勝寺

上小吹村　常宝院

水田郡

雲和村　別納松　室善寺

江州岩本院直門行之代之件院寛之事授位之
證文室町殿御再建出来之名壹紙寄附之事
事多家系図無年入之分　事無年号之分

一文化十四丑年之年之風聞寺

遠見村　勝堂　九間七尺

大室村　長室寺

上八ヶ村　南室院

岩草村　裏日山　文学寺

入山村　寶泉寺

戸隠山、仁明天皇嘉祥年中学宮行之再興之
従三千坊之内宝泉坊有之不戸隠山ル教之
故諸寺院離散慶長年中、至之再興
山故有之負享年中迄ハ補任状表之勤
ニ之事永一之勧務之年度

布山郡目貫

入山村小名上寺

先祖欽明天皇御宇之年紀勿論無
之五拾ヶ之内宗旨証拠之事ハ
疑迄有積之旦那ニ事而ハ有成ル

千手観音　除地之名山林有之

盧空蔵菩薩除地五分

妻科村　宝珠院

中央院

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

北郷村　大学院

先祖宇都宮弥三郎之事蹟之部別帳ニ委細
相記置候得共、元和元乙卯年奥州会津ニ而
壹万石被下候節、観音寺住持其後北郷ニ
壹万石ニ移住候迄、法躰ニ而御奉公仕候
其後俗ニ立候而も御奉公之儀ニ付引続
御免之儀ニ候間、此段も相違
無御座候

下総国

観善寺

右之通ニ御座候、以上

仙壽院

先祖八天正十五亥年、当国ニ而
有漏院
小山ニ住居仕候節、
一万石ニ而
御取立ニ相成候
一向宗ニ而
鳥獄山
仏壽寺

大久保ニ所持候陰徳之記ニ
御取立ニ相成候節、
一向宗ニ而
鳥獄山
仏壽寺

右之通ニ御座候、以上

下総国

観善寺

右之通ニ御座候、以上

北郷村　大学院

先祖宇都宮弥三郎之事蹟之部別帳ニ委細
相記置候得共、元和元乙卯年奥州会津ニ而
壹万石被下候節、観音寺住持其後北郷ニ
壹万石ニ移住候迄、法躰ニ而御奉公仕候
其後俗ニ立候而も御奉公之儀ニ付引続
御免之儀ニ候間、此段も相違
無御座候

下総国

観善寺

右之通ニ御座候、以上

仙壽院

先祖八天正十五亥年、当国ニ而
有漏院
小山ニ住居仕候節、
一万石ニ而
御取立ニ相成候
一向宗ニ而
鳥獄山
仏壽寺

大久保ニ所持候陰徳之記ニ
御取立ニ相成候節、
一向宗ニ而
鳥獄山
仏壽寺

右之通ニ御座候、以上

下総国

観善寺

右之通ニ御座候、以上

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

三寸六分
三寸二分
下ノ六ノ内

大山寺村
宝性院

山王寺村
宝寿院

三嶋寺
学寿院

妙庭寺
天竜院

梅木寺
高明院

梅木下組
新福寺

神路新田寺
知足院

笹田寺村
一乃宮院

久保寺村
東宝院

高倉寺村
上野寺

三嶋寺
学寿院

梅木寺
高明院

梅木下組
新福寺

笹田寺村
中僧村

大山寺村
宝性院

三俣
高田

山種寺村
日吉
日吉
日吉
日吉
日吉
秀吉寺
新町村

掌事
松寺
大学
刑部
千学
法泉
藤学
長高院
常泉寺

山種寺村
日村
日吉
日吉
日村
日村
秀吉寺

宝蔵寺
大日院
観泉寺
宝善院
大泉寺
地蔵院
金剛院
観音院

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12
ガラス使用

836
2
12

国立国会図書館　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『松城封内寺社由緒録』　請求記号 836-12

ガラス使用